

令和5年度 卒業論文

## SNS における特殊な仮名表記について

広島大学文学部人文学科  
日本・中国文学語学コース  
日本文学語学専攻  
B205854 中井基貴

## 目次

1. はじめに .....	1
2. 先行研究 .....	2
2.1 現代の日本語表記について .....	2
2.2 CMC について .....	2
3. X (旧 Twitter) を利用した用例収集 .....	5
3.1 X の概要 .....	5
3.2 日本語研究資料としての X .....	6
4. 調査方法 .....	10
4.1 特殊な仮名表記の定義 .....	10
4.2 調査対象 .....	11
4.3 集計方法 .....	13
5. 調査結果の検討・分析 .....	15
5.1 「ぢ」について .....	15
5.2 「づ」について .....	16
5.3 「ゐ」について .....	17
5.4 「ゑ」について .....	19
6. 考察 .....	21
6.1 「ぢ」について .....	21
6.1.1 特殊な仮名表記「ぢ」の特徴 .....	21
6.1.2 特殊な仮名表記「ぢ」の経年比較 .....	27
6.2 「づ」について .....	30
6.3 「ゐ」について .....	33
6.4 「ゑ」について .....	36
6.4.1 特殊な仮名表記「ゑ」の特徴 .....	36
6.4.2 特殊な仮名表記「ゑ」の経年比較 .....	44
7. 特殊な仮名表記について .....	47
8. まとめ・今後の展望 .....	50

## 1. はじめに

「インターネットスラング」という言葉がある。これは、インターネット上のコミュニケーションで発生し使用される俗語である。たとえば、Google を用いて調べることを指す「ググる」や、現実的かつ社会的に充実していることを指す「リア充」、笑っていることを表現する記号「w」などがそれにあたる。この「インターネットスラング」は上記の「リア充」などを代表に、若者の間ではインターネット上のみならず日常の会話の中でも見られるようになってきている。本稿で言語資料として取り上げる SNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）は、上記の「インターネットスラング」に代表される規範的でない表現を生成する場所として、現在最も活発なコミュニケーション媒体である。

では、SNS はコミュニケーション媒体としてどのような特性を持っているのだろうか。近年、日本ではスマートフォンやそれに関連したサービスの普及に伴い、LINE、X（旧 Twitter）、Instagram などを中心に、SNS の利用者が増加している。これら SNS でのコミュニケーションは、従来行われてきたものとは異なる特殊なものである。それは空間的に離れた人間同士で行うことが可能である一方で、文字数の制限や、パラ言語情報<sup>1</sup>が得られないといった制限が存在する特殊な環境によってなされているからだ。SNS を含め、コンピュータを媒介としてなされるコミュニケーションは、CMC（Computer-mediated communication）と呼ばれる。CMC では、電子メディアの特性に合わせて、正書法ではない文字の使用や絵文字、記号などの規範的なものとは異なる、特殊なテキストの生成が非常に速度で行われているのである。

この CMC についての先行研究には、絵文字や記号、方言についての研究が盛んに行われているが、正書法から逸脱した文字の使用に着目した研究は少ない。筆者はこの点に着目した。正書法から逸脱した文字の内、仮名の使用の在り方に、特徴があったためである。この正書法から逸脱した仮名の使用は一見すると無軌道になされ、文法的な規則性もないように思われる。しかし、使用される傾向を丁寧に観察・分類することで、そこにあるはずの規則性を見出し、文法的に再現できる表現方法として成立するのではないかと考えた。

本稿では、昭和 61 年 7 月 11 日に文化庁が策定した「現代仮名遣い」において、表記の慣習による特例しか認められていない「ぢ」「づ」と、そもそも現代仮名遣いとされていない「ゐ」「ゑ」を対象とし、これらの仮名が日本において代表的な SNS の一つである X（旧 Twitter）でどのように使用されているのかを観察、比較することで、それぞれの表記が持つ特性と、特殊な仮名表記それ自体が持つ特性について考察する。

---

<sup>1</sup> 言語使用に付随し、言語による伝達内容を補足する音声の特徴を「パラ言語」と言い、補足される内容をパラ言語的情報又はパラ言語情報という。

## 2. 先行研究

### 2.1 現代の日本語表記について

現代の日本語表記について、成田・榊原（2004）によると「日本語表記について現在法制化されて目安となっているのは、『常用漢字表』（1981年内閣告示第1号）『現代仮名遣い』（1986年内閣告示第1号）『ローマ字のつづり方』（1954年内閣告示第1号）『送り仮名の付け方』（1973年内閣告示第2号）『外来語の表記』（1991年内閣告示第2号）など」（p.41）とされている。上記の法制化された目安の内、特殊な仮名表記を考察するにあたり重要なのは、「現代仮名遣い」である。「現代仮名遣い」は昭和61年内閣告示第1号にて、昭和21年内閣訓令第8号が廃止され、さらに平成22年11月30日の「常用漢字表」内閣告示に伴い、一部の改正が行われた。

この「現代仮名遣い」は、現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころである。主として口語体のものに適用する仮名遣いであり、表記の慣習から一定の特例はあるものの、原則として語を音韻に従って書き表すこととしている。本研究で対象とする「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」の内、「ぢ」と「づ」は表記の慣習による特例が認められている仮名である。「ぢ」「づ」について表記の慣習の特例として認められているのは、①同音の連呼によって生じた「ぢ」「づ」、②二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」の二つである。①には、「ちぢみ（縮）」「つづみ（鼓）」などの語があり、②には、「みかづき（三日月）」「はなぢ（鼻血）」などの語が認められている。一方で、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等は、「じ」「ず」として書くことを本則としつつ、「ぢ」「づ」で書き表すことも認めている。たとえば、「せかいじゅう（世界中）」や「いなずま（稲妻）」「きずな（絆）」などがそれにあたる。これら「ぢ」「づ」に対して、「ゐ」「ゑ」は現代の日本語表記と認められていない仮名である。「現代仮名遣い」の付表「歴史的仮名遣い対照表」では、現代語の音韻で「イ」と発せられるものは、「い」と、「エ」と発せられるものは「え」と表記している。例を挙げると、「石」の「い」や「居る」の「ゐ」、「思ひ出」の「ひ」などは、現代の日本語表記では「い」と表記し、「枝」の「え」、「植ゑる」の「ゑ」、「考へる」の「へ」などは、現代の日本語表記では、「え」と表記するとされている。つまり現代の日本語表記では、歴史的仮名遣いにおいて「ゐ」「ゑ」と表記されていたものは、原則としてそれぞれ「い」「え」と表記されるということである。

本研究では、この「現代仮名遣い」に基づき、「ぢ」「づ」の表記の内、表記の慣習の特例として認められないものと、「ゐ」「ゑ」の表記の全てを特殊な仮名表記とする。

### 2.2 CMC について

本稿では、SNSにおけるコミュニケーションで見られる正書法から逸脱した仮名の使用について考察していく。これまでのコンピュータネットワーク空間におけるコミュニケーションに関する先行研究では、電子メール、電子掲示板、LINEなど、CMCについての観察と考察がなされ、その特殊性について多くの言及がなされてきた。

萩野（1996）は、「電子メールの光と影」で、電子メールの機能的特徴とそこでのコミュニケーションの問題点をまとめつつ、電子メディアの登場は人間関係の構築や、話しことばと書きことばの関係に影響を与えたとした。また、萩野（1996）は同論文内で、電子メディアの発展・普及によって、人間の話しことば自体が変わっていく面はあまりないが、話しことばを使う言語行動の面では、大きな変化が起こると予測している。

田中（2011）は、『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで』にて、「方言コスプレ」に言及しつつ、その背景には「打ち話しことば」の普及があるとした。また、この「打ち話しことば」の特徴として、話しことばに近いくだけた文体が現れやすく、音声に伴わないということを示した。話しことば的であることと、音声を正確に伝える必要がないという二つの特徴が、ヴァーチャル空間における方言の使用へのハードルを下げたという主張がなされている。

この「打ち話しことば」については、田中（2014）が「ヴァーチャル方言の3用法—「打ち話しことば」を例として」にて細かな定義を加えている。田中（2014）は「打ち話しことば」を、電子メール、ブログ、SNS上などのCMCにおいてキーボードを「打つ」ことによって視覚化された言葉のこととしている。さらに、「打ち話しことば」は非同期・非対面というメディア特性を持つこと、装飾性の高い要素が現れること、文字を基調としつつも「話すように打つ」文体を持つこと、の三点の特徴を持つことを指摘した。

2010年代には、電子メディアの発展と共にLINEを筆頭にSNSが急激に普及し、「打ち話しことば」、つまりCMCにおけるテキスト言語についての研究が盛んになった。加納・佐々木・楊・船戸（2017）は「「打ち話しことば」における句点の役割—日本人大学生のLINEメッセージを巡る—考察—」で、LINEにおけるコミュニケーションの、句点の役割について考察している。そこでは、LINEでのコミュニケーションでは句読点どちらも出現頻度が低くなっており、その理由として送信のたびに区切りが明示されるため、句読点が不要になっているという考察がなされた。また、句点が打たれない一方で、規範的な正書法では補助的な位置づけの感嘆符や疑問符が句末マーカーとしての役割を担っているという特徴も見られたとしている。

落合（2022）も「コレ・ソレ・アレの使用実態からとらえる対面会話の話しことばと携帯メール・LINEの「打ち話しことば」」で、LINEを言語資料として、「打ち話しことば」の特性を考察した。田中（2014）が言及した「打ち話しことば」の特性を基に、指示詞コレ・ソレ・アレの現れ方を、話しことばと「打ち話しことば」で比較することで、「打ち話しことば」の独自性の把握を試みた。その結果、LINEは携帯メールより対面会話に近い言語使用が展開されること、「打ち話しことば」が話しことばに近づく言語使用の変化がある一方で、話しことばが「打ち話しことば」に近づく逆向きの変化もあること、文字だけで情報伝達できる環境では、演技的な側面が強く現れるという三点の指摘がなされた。加えて、新たなメディアの話しことばには、そのメディアの機能的特性に規定される側面がある一方で、既存の話しことばを左右する側面もあるとし、日本語の使用の変化をとらえる上で、電子メディアの話しことばは今後ともますます重要な資料となることを主張した。

以上、CMC と、そのうちテキスト言語についての先行研究について見てきたが、これらはヴァーチャル空間での方言や、句読点、記号、表現上の特色に着目した研究が中心となっている。そこで、本研究では、正書法から逸脱した仮名の使用について言及するとともに、規範的な使用と比較することで、その実態を明らかにすることを試みる。言語資料としては、2010年代に急激に普及した SNS の内、X（旧 Twitter）を採用する。X を言語資料として採用する理由と採用する上での留意点については、以下の「**3. X (Twitter) を利用した用例収集**」で説明する。

### 3. X (旧 Twitter) を利用した用例収集

#### 3.1 X の概要

X (旧 Twitter) とは、「個々のユーザーが「ツイート」(tweet) と呼ばれる 140 文字以内の「つぶやき」を投稿し、そのユーザーをフォローしているユーザーが閲覧できるサービス」(『平成 28 年度版 情報通信白書』「資料編」用語解説より) のことである。なお、2023 年 7 月 24 日より、Twitter の名称が X に変更されたため、以下の図、及び引用にある Twitter への言及は全て、本稿においては、X への言及として扱う。

Twitter (現 X) が日本でサービス開始となったのは、2008 年であった。その利用率は年々増加し、現在では、主に 10 代から 30 代の人々を中心に利用されている代表的な SNS の一つである。以下で、利用率、利用者の年代を詳しく見ていく。

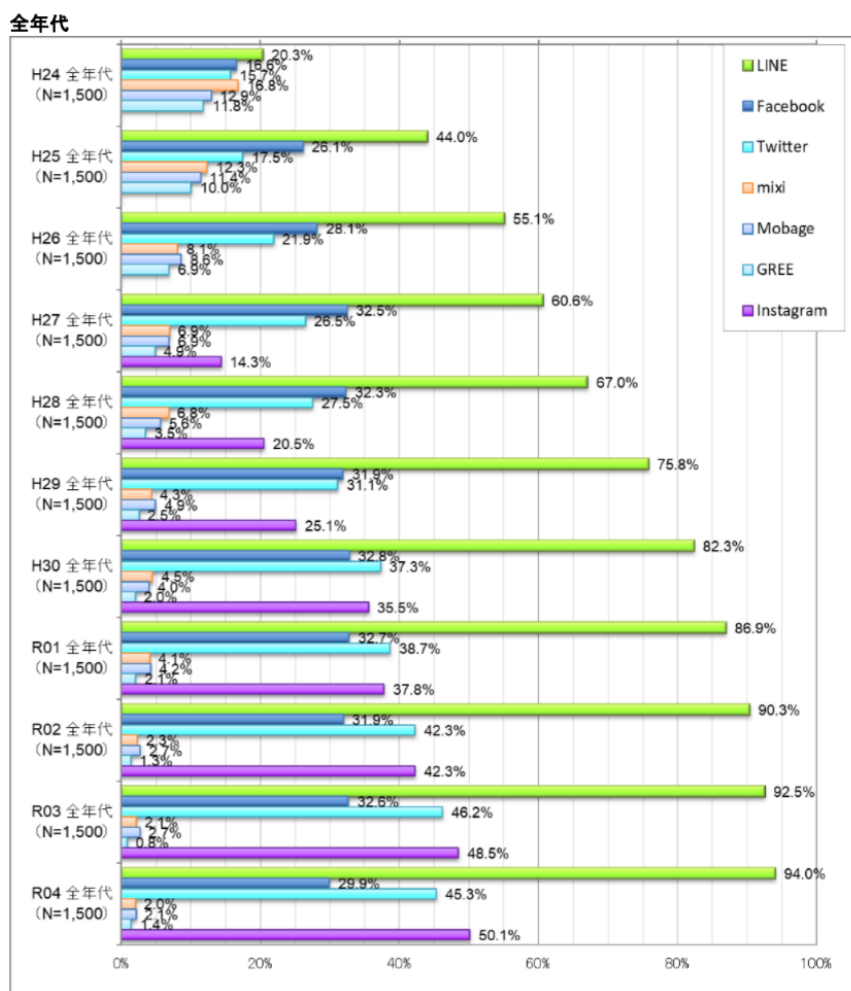


図1 【経年】主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率(全年代)  
(総務省情報通信政策研究所「令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」(2023)より引用)

図1は、総務省情報通信政策研究所(2023)によって調査された、日本における主なSNS

の利用率である。隔年で 1500 人を対象に、主要な SNS ごとに、利用しているか否かを問  
い、利用率を示している。X (旧 Twitter) に注目してみると、2012 年から 2021 年にか  
けて利用率は増加しており、2023 年になると微減するものの、45.3%の人々が利用して  
いることが分かる。これは、現在の日本においては LINE、Instagram に続く、三番目に高い利  
用率である。以上から、X は現在の日本における中心的な SNS だと言えるだろう。

	全年代(N=1,500)	10代(N=140)	20代(N=217)	30代(N=245)	40代(N=319)	50代(N=307)	60代(N=272)	男性(N=760)	女性(N=740)
LINE	94.0%	93.6%	98.6%	98.0%	95.0%	93.8%	86.0%	91.3%	96.8%
Twitter	45.3%	54.3%	78.8%	55.5%	44.5%	31.6%	21.0%	44.3%	46.2%
Facebook	29.9%	11.4%	27.6%	46.5%	38.2%	26.7%	20.2%	31.6%	28.2%
Instagram	50.1%	70.0%	73.3%	63.7%	48.6%	40.7%	21.3%	41.4%	58.9%
mixi	2.0%	2.9%	1.8%	4.1%	1.6%	1.6%	0.7%	2.8%	1.2%
GREE	1.4%	2.9%	2.8%	2.4%	0.3%	1.0%	0.4%	1.4%	1.4%
Mobage	2.1%	6.4%	2.8%	4.1%	1.3%	1.0%	0.0%	2.8%	1.5%
Snapchat	1.7%	4.3%	3.7%	2.9%	0.9%	0.7%	0.0%	1.7%	1.8%
TikTok	28.4%	66.4%	47.9%	27.3%	21.3%	20.2%	11.8%	25.7%	31.2%
YouTube	87.1%	96.4%	98.2%	94.7%	89.0%	85.3%	66.2%	89.9%	84.2%
ニコニコ動画	14.9%	27.9%	28.1%	17.1%	9.1%	10.4%	7.7%	19.7%	10.0%

図2 【令和4年度】主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率（全年代・年  
代別）

（総務省情報通信政策研究所「令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に  
関する調査報告書」（2023）より引用）

図2も、図1と同様に総務省情報通信政策研究所（2023）によって調査された日本での S  
NS の利用率だが、このグラフはその利用率が年代別に整理されている。X (旧 Twitter) の  
利用率を見てみると、10代、20代、30代の利用率が特に高く、最も利用率の高い20代は  
78.8%となっている。一方で、60代が最も低く、21.0%という調査結果である。以上を踏ま  
えて、Xの利用者は比較的若年層であることが覗える。

以上がXの概要である。経年で見た利用率、年代別の利用率から、Xは日本で2012年  
から利用率を伸ばしてきた、中心的なSNSの一つであり、その利用者層は10代から30代  
の比較的若年層であることを確認できた。

### 3.2 日本語研究資料としてのX

前項で、Xの概要について見てきたが、既述のような概要を持つXは、日本語研究資料  
として見ると、どのような特徴を持つのだろうか。近年では、言語変化の萌芽を観察し、そ  
れを即座に検証できるという特性から、SNS、ひいてはXを言語資料とする日本語研究が  
行われることが多い。これに対して、岡田（2018）は「Twitterに投稿された文書をどのよ  
うな言語資料としてみなしているのか/みなすべきなのかという点に無自覚な印象を受ける」  
（p.78）と指摘している。

そのため、具体的な調査方法の説明に入る前に、日本語研究資料としてのXの特徴と、  
言語資料として扱う上での留意点などを明確にしておきたい。



まず、Xのみならず、電子メディアそれ自体の言語資料性について確認する。これについて田野村(2000)は「利用者が指定したキーワードを含む文書をインターネット上の膨大な文書群の中から非常に高速に検索してその結果を知らせてくれる」(p.26)としており、用例収集を効率的に行えることを利点の一つとしている。また、同論文内で次のようにも言及している。

インターネット上では、個人の日記、あるいは「日記」と題した随想の類が大量に公開されている。「掲示板」や「会議室」と呼ばれる、文字を使った雑談や情報交換の場もある。こうしたところに現れる日本語は、通常の出版物に課せられる規範の制約から往々にして解放されている。(p.28)

「打ちことば」についての先行研究でもいくつか言及があったが、Xに限らず、電子メディアで用いられる言語は、出版物よりも日常的な言葉遣いが選択される傾向がある。また、校閲の入らない口語の先端的な日本語研究の立ち位置について、岡島(2018)は「求めるべきは口語的であることよりも、校閲性の低さ、規範から外れまいとする意識が低いことではないかと考えられる」(p.81)としている。SNSに打ち込まれるテキストは、他の文学作品などの言語資料とは異なり、校閲が入らず、文学的な装飾も少ない。つまり、SNSを言語資料として活用すれば、実際の言葉遣いに限りなく近い用例収集が可能になるということである。

以上、電子メディア、特にSNSの日本語言語資料としての特徴をまとめると、言語変化の萌芽を観察できる点、多くの用例収集が可能である点、校閲性の低い、実際の口語に近い言葉遣いの観察が可能である点の三点である。これらの特徴を見れば、Xは言語資料としては申し分ないものであると思える。

しかし、当然のことながら、SNSを言語資料として扱うには、注意点も存在する。第一に、SNSのみならず、電子メディア全体に言えることであるが、そこにある文書はいつ消されるか分からない。田野村(2000)が次のように説明している。

インターネット上の情報は時々刻々変化しており、きょう参照できる文書があすにはもう参照できなくなっているということが珍しくない。このように、日本語研究の資料としてのインターネットにはデータの保存性が良くないという短所がある。(p.29)

Xでは、ある時に投稿された文書が削除されてしまうことが往々にしてありうるのである。これには、サーチエンジンなどを使用して、単に使用例件数を記録するのみでは、研究の「再現性」を保証できないという問題が浮上する。

第二に、使用例と言及例の区別を明確にしておく必要がある。田野村(2000)によると、使用例とは、文の中で言葉が直接の意味で用いられる用例であり、一方と言及例とは、特定

の言語表現が言及される場合の用例である。以下の「ようつべ (YouTube<sup>2</sup>)」の例文を見てほしい。

使用例：「今日は一日中ようつべ見てたー」

言及例：「ようつべって言い方、ほとんどの人たちには伝わらないんじゃないの？」

使用例は、「ようつべ」という語を直接的に使用している一方で、言及例は「ようつべ」という語を直接的に使用しているわけではない。この言及例を使用例と同様に扱ってしまうと、「ようつべ」の用例の比率が、実際の使用比率より高くなってしまう。X を言語資料として扱う際には、この使用例と言及例は峻別する必要がある。

第三に、X に投稿された文書は、その送信者の性質の理解、投稿の方法によるコミュニケーションの性質の違いを等閑に出来ないという問題がある。X には、大まかに分類して5種類の投稿が存在する。投稿を送信者自身が書く「ポスト」と、それに対する返信の「リプライ」、送信者自身が投稿内容を書かない「リポスト」、インターネット上の記事などを共有する「シェア」、プログラムによる自動投稿である「bot」である。このうち、送信者と文章を作成した者が同一なのは、「ポスト」と「リプライ」であり、言語資料として適切となるのは、この二つのみである。これについて、岡田・西川 (2016) が以下のように言及している。

(1) ツイート, (2) リプライの大半はやはり送信者が書いたものとみなせる。それゆえ, (1) ツイート, (2) リプライは基本的には使用例の言語資料とみなすことが可能であろう。

一方, (3) リツイート, (4) シェア, (5) bot は, 基本的には投稿全体が送信者以外が書いた文章である。したがって, (3) リツイート, (4) シェア, (5) bot は, 基本的には言及例の言語資料とみなすべきである。(p.103)

なお、この論文内の「ツイート」「リツイート」はそれぞれ X における「ポスト」「リポスト」に対応している。岡田・西川 (2016) はここで、「ポスト」「リプライ」を使用例とし、「リポスト」「シェア」「bot」を言及例としている。しかし、この使用例と言及例の区別の方法には問題がある。「リポスト」「シェア」「bot」が送信者本人によって書かれておらず、言及例として扱うことは認められるが、実際には「ポスト」「リプライ」にも言及例と認められる投稿は存在していることには留意が必要であり、一つ一つの投稿を観察することが求められる。

最後に、「ポスト」と「リプライ」それぞれのコミュニケーション構造にも違いがあることを説明しておかねばならない。前者は、独話的である一方で、後者は「ポスト」を受けて返信するという形をとる。この内「リプライ」は従来収集が困難であった CMC における対

---

<sup>2</sup> 「YouTube」とは、インターネット上の動画共有サービスの一つである。

話を大量に収集できる可能性を持つと考えられる。これまで、CMCにおける対話の研究はLINEでのコミュニケーションを調査対象とするものがほとんどであった。これらの研究は、個人的にデータを収集し、考察したものであり、大規模なデータを対象にした計量的な研究とは言えない。これは、LINEでの対話は基本的に非公開であり、大規模データを対象としてデータ収集をすることが非常に困難であることに起因する。これに対して、Xは「リプライ」による対話も閲覧可能であり、大規模データを対象とする個人間の対話の研究が可能になるという利点を持っている。しかし、Xの「リプライ」については、LINEの対話とは決定的に異なる面がある。それは、第三者が閲覧可能であるということである。この相違点がLINEとXの「リプライ」の言葉遣いの選択にどのような影響を与えるのかは無視できない要因である。

以上、言語資料としてのXの特性をまとめた。Xは優れた言語資料となる可能性を十分にはらんでいる一方で、資料特性の理解、用例の観察を等閑にしていれば、研究の信憑性を著しく落とすことになることを確認することができた。

なお、2023年7月24日のTwitterからXへの名称変更に伴い、「ツイート」は「ポスト」、「リツイート」は「リポスト」という呼称に変更された。この変更に伴う本研究への影響については、後述する。

## 4. 調査方法

### 4.1 特殊な仮名表記の定義

本稿では、「ぢ」「づ」の一部と「ゐ」「ゑ」を特殊な仮名表記として扱う。これは現代の国語を書き表すためのよりどころである、「現代仮名遣い」を規範的な仮名表記とし、そこから外れるものを特殊な仮名表記としている。「ゐ」「ゑ」については、その全てが「現代仮名遣い」には存在しないため、それら全てを特殊な仮名表記とする。一方で「ぢ」「づ」については、「現代仮名遣い」で表記の慣習による特例が認められているため、「ぢ」「づ」のどのような使用例を特殊な仮名表記とするのか、本研究における立場を明確にしておきたい。そのため、「現代仮名遣い」として認められる表記の慣習による特例を以下に示す。

- ・(1) 同音の連呼によって生じた「ぢ」「づ」

例 ちぢみ(縮) ちぢむ ちぢれる ちぢこまる  
つづみ(鼓) つづら つづく(続) つづめる(約△) つづる(綴\*)

[注意] 「いちじく」「いちじるしい」は、この例にあたらない。

- ・(2) 二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」

例 はなぢ(鼻血) そえぢ(添乳) もらいぢち そこぢから(底力) ひぢりめん  
いれぢえ(入知恵) ちゃのみぢゃわん  
まぢか(間近) こぢんまり  
ちかぢか(近々) ちりぢり  
みかづき(三日月) たけづつ(竹筒) たづな(手綱) ともづな にいづま  
(新妻) けづめ ひづめ ひげづら  
おこづかい(小遣) あいそづかし わしづかみ こころづくし(心尽) てづ  
くり(手作) こづつみ(小包) ことづて はこづめ(箱詰) はたらきづめ  
みちづれ(道連)  
かたづく こづく(小突) どくづく もとづく うらづける ゆきづまる  
ねばりづよい  
つねづね(常々) つくづく つれづれ

なお、次のような語については、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則とし、「せかいじゅう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用いて書くこともできるものとする。

例 せかいじゅう(世界中) いなづま(稲妻) かたず(固唾) きづな(絆) さ  
かづき(杯) ときわず ほおずき みみずく  
うなずく おとずれる(訪れる) かしづく つまづく ぬかずく ひざまづく  
あせみずく くんずほぐれつ さしづめ はずっぱり なかんずく  
ゆうずう(融通)

[注意] 次のような語の中の「じ」「ず」は、漢字の音読みでもともと濁っているものであって、上記の(1)、(2)のいずれにもあらず、「じ」「ず」を用いて書く。

例 じめん(地面) めのじ(布地)  
ずが(図画) りやくず(略図)

以上が「現代仮名遣い」の「ぢ」「づ」の表記の慣習による特例である。本稿では、これらに該当しない「ぢ」「づ」の使用例を特殊な仮名表記として認める。

なお、上記の内、「(2) 二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」」について、「ぬまづ(沼津)」などの地名や固有名詞を、二語の連合ととらえるか、一語として捉えるかといった問題があるが、本研究では、二語の連合として捉える。

## 4.2 調査対象

本稿では、Xに投稿された「ポスト」の内、正書法とは異なる使用例を収集し、その観察を行う。

調査対象の説明をする前に、本研究における、「ポスト」「リプライ」「リポスト」「シェア」「bot」の呼称を明確にしておきたい。「3.2 日本語研究資料としてのX」で説明した通り、2023年7月24日の名称変更に伴い、「ツイート」は「ポスト」、「リツイート」は「リポスト」という呼称に変更された。本研究では、これらの表記を統一するために、「ツイート」「ポスト」を「投稿」、「リプライ」を「返信」、「リツイート」「リポスト」を「再投稿」と呼称し、「シェア」、「bot」はそのまま、それぞれ「シェア」「bot」と呼称する。

以下が調査対象である。

- ①「ぢ」のキーワードをすべて含む「投稿」
- ②「づ」のキーワードをすべて含む「投稿」
- ③「い」のキーワードをすべて含む「投稿」
- ④「ゐ」のキーワードをすべて含む「投稿」
- ⑤「え」のキーワードをすべて含む「投稿」
- ⑥「ゑ」のキーワードをすべて含む「投稿」

調査対象は、規範的な文字の使用とは異なる使用が見られる、「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」である。この内、「ゐ」と「ゑ」は、比較対象として、正書法である「い」「え」の調査も行った。繰り返しになるが、ここで正書法の基準とするのは、「現代仮名遣い」である。

また、調査対象として、Xの送信の種類の内「投稿」を選んだ。これには、二つの理由がある。一つ目は、「投稿」「返信」「再投稿」「シェア」「bot」のうち、使用例があると考えられるものが、「投稿」と「返信」のみだからである。二つ目は、「返信」の性質の不安定さにある。「投稿」が多数を対象とした独話的な性質を持つのに対して、「返信」は「投稿」への対話という形式を持ちつつも、不特定多数の人々が閲覧可能であるため、対

話的な性質を持つもののみならず、「投稿」に対する独話的な「返信」なども見られるのである。「返信」を言語資料として扱う上で、その性質を明確にすることができないため、対象とするには不適切であると判断した。

続いて、調査期間を示す。

- ①：2007年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2010年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2013年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2016年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2019年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2022年10月31日以前の最新の「投稿」200件
- ②：2022年10月31日以前の最新の「投稿」200件
- ③：2022年10月31日以前の最新の「投稿」310件
- ④：2022年10月31日以前の最新の「投稿」310件
- ⑤：2007年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2010年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2013年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2016年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2019年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2022年10月31日以前の最新の「投稿」310件
- ⑥：2007年10月31日以前の最新の「投稿」13件  
2010年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2013年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2016年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2019年10月31日以前の最新の「投稿」200件  
2022年10月31日以前の最新の「投稿」310件

調査期間について、Xの「投稿」検索結果の画面表示上の問題があり、調査が特殊なものになってしまったことを説明しておきたい。Xの「高度な検索」機能の検索で送信された日付を指定した場合、新しい投稿から表示される。たとえば、「2022年1月1日以降、2022年12月31日以前」という日付の指定をした場合、最上部に表示されるのは2022年12月31日のものであり、並び替えをすることもできない。そのため、古い投稿から収集することが非常に困難であった。故に、上記の使用例は「高度な検索」でそれぞれの日付を指定したものの内、新しい投稿から使用例を収集している。

①・⑤・⑥は「投稿」が見られる2007年から、2010年、2013年、2016年、2019年、2022年と3年ごとの使用例収集を行った。これは、2022年の用例収集の際、「ち」と

「急」については、特徴的な使用例が見られ、その変遷を追う必要があると考えたためである。この特徴については、後の考察にて触れる。

なお、本稿の使用例収集は、「3.2 日本語研究資料としてのX」で触れた留意点に則し、投稿者の性質を十分に把握するために、すべて手作業で行った。特に、「高度な検索」機能では、「bot」を排除することができないため、「bot」であるか否かは投稿者の観察が必要である。本稿における「投稿」「bot」の区別の基準は以下の三点である。

1. 同一内容の投稿を一定の頻度で行っている
2. 一語、あるいはランダムな語を並べた投稿を一定の時間に送信している
3. アカウントの概要欄にて「bot」であること、もしくは自動投稿であることを明言している

なお、3については、「bot」でないにもかかわらず、「bot」を自称することがあることを踏まえ、アカウント概要欄にて「bot」、あるいは自動投稿であると紹介されている場合でも、1と2の確認作業は必ず行った。3はあくまで、「投稿」と「bot」を区別するための補助的な判断基準である。

### 4.3 集計方法

まず、調査方法について説明する。Xにて使用例を調査するにあたり、既に名前を出した、「高度な検索」機能を用いる。「高度な検索」とは、Xの投稿検索方法の一つであり、検索する語を絞る「キーワード」、送信者を絞る「アカウント」、投稿の種類で検索結果を絞る「フィルター」、「返信」や「再投稿」などの数で検索結果を絞る「エンゲージメント」、投稿日時で検索結果を絞る「日付」がある。図3が実際の使用画面である。



図3 「高度な検索」機能

本稿では、この「高度な検索」機能を活用し、対象、期間を指定して使用例の収集を行う。

集計は Excel で行った。Excel には、投稿内容、投稿と共に送信される情報（画像・動画・引用など）、特殊な仮名表記の含まれる語、語の品詞<sup>3</sup>、活用型、活用形、特殊な仮名表記の性質、送信者名・ユーザーID、投稿IDを記録した。①～⑥の収集件数はすべて延べ語数<sup>4</sup>である。また、同一語内に調査対象の仮名が複数ある場合は、一語として扱った。以下がその例である。

(1)10月最終日 今日もええ天気やね ほなお仕事頑張りましょか

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/meister\\_T/status/1586869895559811072?s=20&t=\\_a641hBYq7AdRgJtHjamma](https://x.com/meister_T/status/1586869895559811072?s=20&t=_a641hBYq7AdRgJtHjamma))

(2)あーーーーー帰りてえええええ

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/r\\_shiro32/status/1586870286560788480?s=20&t=0LzZ8DDI47YLcT4tOUspTg](https://x.com/r_shiro32/status/1586870286560788480?s=20&t=0LzZ8DDI47YLcT4tOUspTg))

上記は「え」の使用例である。(1)の下線部は「ええ」は形容詞「良い」の意味で使用されている。(2)は助動詞「たい」の強調表現として、「え」が重ねて表記されている。これらは同一語内に調査対象の仮名「え」が複数ある場合である。この場合は、複数の使用例ではなく、一つの使用例として集計した。これは、上記の使用例の「え」を複数の使用例として集計した場合、集計結果に偏りを生ずる可能性があると考えたためである。たとえば、(1)のような使用例を二つの使用例として集計した場合、集計上、語の品詞には形容詞の使用例として二つ集計されることになる。また、(2)の場合、感動詞などは特に多く重ねて表記されることが多く、それらをすべて集計した場合、集計結果は「え」の使用の傾向を純粋に反映したものにはならない。よって、(1)、(2)のような同一語内に複数の調査対象の仮名が存在する場合は、一つの使用例として扱った。

ただし、同一語内に複数の調査対象の仮名が存在する使用例については、SNSにおける特殊な仮名表記の特徴の究明に大きく関わる要素であるため、その出現傾向を把握できるよう、記録した。

---

<sup>3</sup> 品詞の分類については、橋本進吉（1934）の分類を参考にしている。なお、形容動詞と固有名詞については、本稿では便宜上、それぞれ形容詞、名詞と別分類として扱っている。

<sup>4</sup> 延べ語数とは、単語の異なりにかかわらず、その語が使用された度数の総和である。同一の語が複数回使用されていたとしても、その回数をすべて計上する。



## 5. 調査結果の検討・分析

本項では、調査の結果、それぞれの仮名にどのような傾向が見られたのか、実際に見られた使用例も交えながら、紹介していく。

### 5.1 「ぢ」について

以下は 2022 年 10 月 31 日以前の「投稿」を品詞別に分類した表である。

表 1. 「ぢ」を含む「投稿」の使用例

N=200

品詞	形容詞	形容動詞	名詞	固有名詞	副詞	助動詞	格助詞	終助詞	接尾辞	不明
ぢ	11	47	21	35	6	45	3	21	2	9

表 1 は、「ぢ」が含まれる語を品詞別に分類し計上したものである。動詞など、「ぢ」の使用例には見られなかった品詞は表には記載していない。

表 1 を見ると、「ぢ」の使用例は、形容動詞、名詞、固有名詞、助動詞、終助詞に多く見られることが分かる。それぞれの使用例を以下に示す。

(3) やっぱりな～わかりやす！まぢ無理！

だから気いつかったんだわ

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID : <https://twitter.com/KMayu0430/status/1586870439078338560?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw>)

(4) ちょっと前までは 4vc 相手だろうがチェイスぢからと立ち回りでねじ伏せるハンターばかりだったけど、最近はそうじゃないんだな

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID : [https://x.com/kana\\_riutt/status/1586855657898381312?s=20](https://x.com/kana_riutt/status/1586855657898381312?s=20))

(5) とうとうこの日が…。

2005 年のこの時間のばぢさんの気持ちを考えたらすでに泣く。

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID : [https://x.com/skn\\_11kn/status/1586861041878958080?s=20](https://x.com/skn_11kn/status/1586861041878958080?s=20))

(6) 推しかゲーム筐体に潰されて死ぬのは悪くないかもしれないがオタクに潰されて死ぬのは嫌ぢゃ

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://twitter.com/JamboreeBunchan/status/1586869993219575808?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw)

(7) 4枚目画角てんさいぢゃん

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://twitter.com/idolfancy\_/status/1586870146320457730?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw)

(3)～(7)の例文は、それぞれ、形容動詞、名詞、固有名詞、助動詞、終助詞の使用例である。(4)は、特殊な仮名表記ではなく、「現代仮名遣い」に則した、二語の連合によって生じた「ぢ」である。一方で、(3)、(5)～(7)は特殊な仮名表記である。(3)は形容動詞「まじだ」、(5)は固有名詞「ばじ」、(6)は助動詞「じゃ」、(7)は終助詞「じゃん」の異表記である。(5)の「ばじ」とは、和久井健による漫画、『東京卍リベンジャーズ』の登場人物、「場地圭介」のことである。

「ぢ」については、上記のように、正書法も一定数見られるが、特殊な仮名表記が多く見られた。異表記としての「ぢ」の詳しい特徴や、年代別の比較考察は「6. 考察」にて取り上げる。

## 5.2 「づ」について

以下は、2022年10月31日以前の「づ」が含まれる「投稿」を品詞別に分類した表である。

表2. 「づ」を含む「投稿」の使用例

N=200

品詞	動詞	形容詞	名詞	代名詞	固有名詞	助数詞	副詞	助動詞	副助詞	不明
づ	9	12	19	2	133	1	4	4	1	15

表2は、表1と同様に、「づ」が含まれる語の品詞を分類したものである。使用例が見られなかった品詞については、記載していないことには注意されたい。

表2を見て分かる通り、固有名詞が133件と圧倒的に多く、続いて名詞、形容詞が多い。以下が今回の調査で見られた使用例である。

(8) ムキムキよねづ好きすぎて👉('ω'👉)

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/norino\_norinori/status/1586758822047416320?s=20)

(9) 大阪転勤になって移動した翌日東京戻ってぬまづフェス行ったんやぞ！

スキドリ好きです

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/ff3poke/status/1586770523073019904?s=20)

(10) そうよな…目的地一緒だもんな…そりゃ目の前歩くよね…めちゃうちゃ気まづ、  
いつもより階段長く感じるし

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/garodesu/status/1586853929572528128?s=20)

(8)～(10)は、「づ」の使用例である。(8)はシンガーソングライターの「米津玄師」の呼称である。この投稿は、彼の楽曲のミュージックビデオである『KICKBACK<sup>5</sup>』について書かれたものと思われる。(9)は地名「沼津」のひらがな表記である。(8)(9)はどちらも、「現代仮名遣い」に則した、二語の連合によって生じた「づ」であり、正書法から逸脱した仮名遣いではない。これら二つに対して、(10)は特殊な仮名表記である。形容詞「気まづい」の表記で、正書法では「ず」とするところを「づ」と表記している。

「づ」については、基本的に「現代仮名遣い」に則した使用がなされており、特殊な仮名表記は少ない傾向にあった。

### 5.3 「ゐ」について

以下は、2022年10月31日以前の「ゐ」が含まれる「投稿」を品詞別に分類し計上した表である。

表3. 「ゐ」を含む「投稿」の使用例

N=200

品詞	動詞	形容詞	名詞	固有名詞	感動詞	助動詞	副助詞	不 明
ゐ	14	101	16	145	1	7	4	3

<sup>5</sup> 『KICKBACK』は、YouTubeにて、2022年10月25日に公開されたミュージックビデオである。

URL：https://youtu.be/M2cckDmNLMI

表3も、出現しなかった品詞は記載していない。表3を見ると、「づ」と同様に、固有名詞が145件と、圧倒的に多くなっている。それ以外では、名詞、動詞、形容詞が多い。以下が実際に見られた使用例である。

(11) 今日の動画、真っ先に「腐れ外道とチョコレゐト」が思い浮かんだ。良い曲だよ～みんな聴いてみてね～。

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/MocoMoko\\_Candy/status/1586739287655006208?s=20](https://x.com/MocoMoko_Candy/status/1586739287655006208?s=20))

(12) みんなハロウィンるイベント楽しむそうで何よりだよ～

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/o\\_o\\_mugi/status/1586723662014873600?s=20](https://x.com/o_o_mugi/status/1586723662014873600?s=20))

(13) 給仕らしからぬ女学生時代の口調がほろり出てしまひ良くなる限り,落ち着ひた人間へとなりたく願ひます.ええ,

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://twitter.com/hellow\\_xxx/status/1586792243926818816?s=20&t=Ww7FGYdQS1rt2SFIwnFUcA](https://twitter.com/hellow_xxx/status/1586792243926818816?s=20&t=Ww7FGYdQS1rt2SFIwnFUcA))

(11) は YouTube に投稿されている楽曲名である。ここでの「る」は、送信者による異表記ではなく、楽曲名それ自体が異表記であり、楽曲名に「る」が使用されている理由には、表現上の意図<sup>6</sup>がある。(12) は、名詞「イベント」を「るイベント」と表記している。この使用例で注目すべきは、形容詞「楽しい」も「楽しむ」と表記していることである。文章全体で「る」をあえて選択していると思われる。(13) は形容詞「ない」の異表記である。この投稿は名詞「給仕」や「らしからぬ」といった文体から、「現代仮名遣い」以前の文体を想起させるものである。ここでの「る」はその文体の雰囲気を支える役割を担っていると思われる。

以上が、今回の調査で見られた「る」の使用例である。

---

<sup>6</sup> 楽曲『腐れ外道とチョコレゐト』は流言飛語と、それに踊らされる人間を描いている。この楽曲の題名にある「チョコレゐト」とは、その流言飛語の比喩であり、人の気を惹くだけの「偽物」の表現として異表記が取られている。

URL：<https://youtu.be/sHnvEsNU1X0>

#### 5.4 「ゑ」について

以下は、2022年10月31日以前の「ゑ」が含まれる「投稿」を品詞別に分類し計上した表である。

表4. 「ゑ」を含む「投稿」の使用例

N=310

品詞	動詞	形容詞	名詞	固有名詞	感動詞	助動詞	終助詞	不
ゑ	3	4	13	53	214	6	3	14

表4も同様に、出現しなかった品詞は記載していない。表4を見て分かる通り、「ゑ」の使用例は、感動詞が214件と非常に多い。次いで、固有名詞、名詞が多くなっている。以下が、実際に見られた使用例である。

(14) ゑ? 今日サザエさんないの???

(投稿日: 2022/10/30)

(投稿ID: [https://twitter.com/FTA\\_dakki/status/1586651941681397761?s=20&t=tTmB0AV3RWoIreLYw9b0kw](https://twitter.com/FTA_dakki/status/1586651941681397761?s=20&t=tTmB0AV3RWoIreLYw9b0kw))

(15) ぼっけゑラーメンほんとに濃厚系ラーメンとキムチ好きな方には行ってほしい

(投稿日: 2022/10/30)

(投稿ID: <https://twitter.com/mogmogrice/status/1586686107361894401?s=20&t=62bFwU-3IrUIFuoYKT6RBg>)

(16) 今月描いたゑ! えらい!

(投稿日: 2022/10/31)

(投稿ID: <https://twitter.com/lisnoirer/status/1586739443611754497?s=20&t=aoPlz7mO05Qr3pVqWXKFow>)

上記が今回の調査で見られた「ゑ」の使用例である。(14)は感動詞「え」を「ゑ」で表記している。この感動詞は、文章内容から「疑問」や「驚き」、「意外」であることを表明していることが分かる。(15)は固有名詞での使用例である。「ぼっけえ」とは岡山弁で、「大変」や「すごく」という意味であるが、ここで、「ゑ」を選択した理由や目的の特定は困難である。(16)は名詞「絵」を「ゑ」と表記した使用例である。送信者が描いた絵の画像と共に送信されており、この投稿の「ゑ」がその絵を指していることから、ここでの意味が名詞「絵」であるとわかる。

以上が「ゑ」の使用傾向と、実際に見られた使用例である。今回の調査で特に注目すべきは、感動詞での使用が非常に多いことである。「現代仮名遣い」として認められていない「ゐ」には感動詞の使用例がほとんど見られないのに対して、「ゑ」では 214 件も見られるのは、特筆すべき点である。この要因については、「現代仮名遣い」に則した規範的な表記である「え」との比較や、年代別の使用傾向の変遷から、「6. 考察」にて詳しく触れていく。

## 6. 考察

### 6.1 「ぢ」について

#### 6.1.1 特殊な仮名表記「ぢ」の特徴

本項では、「ぢ」について考察する。「ぢ」は「現代仮名遣い」でも一部認められる仮名であるが、調査結果から、Xでの使用例では、特殊な仮名表記での使用も存在することが分かった。では、この特殊な仮名表記にはどのような傾向があるのだろうか。まずは、この点について詳しく見ていく。

今回の調査で、「ぢ」の使用例には以下のようなものが見られた。

- ①「じ」を「ぢ」と表記する
- ②「ち」を「ぢ」と表記する
- ③上記以外の仮名を「ぢ」と表記する
- ④「現代仮名遣い」に則して表記する

上記の「ぢ」の使用のされ方について、実際に見られた使用例を示す。

(17) とりあえず渋ハロ治安悪すぎて推しメンが無事帰れるかおぢさん心配

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：<https://x.com/sawayakaorenge/status/1586857821022597120?s=20>)

(18) この世でいぢばんかわいい

(投稿日：2022/10/30)

(投稿ID：[https://x.com/Puddle\\_Of\\_Sato/status/1586505909034831872?s=20](https://x.com/Puddle_Of_Sato/status/1586505909034831872?s=20))

(19) うれぢ～！！てんきゅ🥰❤️🥰❤️

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/Glicia\\_Grace/status/1586856797507551232?s=20](https://x.com/Glicia_Grace/status/1586856797507551232?s=20))

(20) まいにちなんどもはなぢがでる

これ鼻の中乾燥して皮剥がれたとかしたんだらうな～

鼻血出るたびに鼻をかむことによりさらに悪化するやつ？やだ～！！

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://twitter.com/Masuyu\\_rumu/status/1586863926025031682?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw](https://twitter.com/Masuyu_rumu/status/1586863926025031682?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw))

(17) は①の使用例である。名詞「おじさん」を「おぢさん」と表記している。つまり、

これは異表記である。(18)は㊦の使用例である。副詞「いちばん」を「いぢばん」と表記している。繰り返しになるが、㊦は「ち」を「ぢ」と表記するものである。これは異表記というより、濁点付与というべきものである。(19)は㊧の使用例である。形容詞「うれしい」が「うれぢい」と表記されている。最後に(20)は㊨の使用例である。名詞「はなぢ」は二語の連合によって生じた「ぢ」であり、特殊な仮名表記ではなく、「現代仮名遣い」に則している。なお、この㊨の使用例については、特殊な仮名表記ではないため、本稿では考察を挟まない。

以上の分類で、表1を整理したものが、以下の表である。

表5. 2022年「ぢ」の「投稿」(使用方法別)

N=200

品詞	形容詞	形容動詞	名詞	固有名詞	副詞	助動詞	格助詞	終助詞	接尾辞	不明	合計
㊦	0	46	7	16	1	45	2	18	0	—	135
㊦	2	0	5	0	5	0	0	0	2	—	14
㊧	9	1	0	1	0	0	1	3	0	—	15
㊨	0	0	9	18	0	0	0	0	0	—	27
不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	9
合計	11	47	21	35	6	45	3	21	2	9	200

表5を見て分かる通り、㊦が非常に多くなっている。㊦は「じ」を「ぢ」と表記している使用例、つまり同音の文字による異表記である。その内容のほとんどは、助動詞「じゃ」、形容動詞「まじだ」の異表記であった。この㊦の表記は、「老人語」および「ギャル語」を装った投稿にて見られた。この「老人語」「ギャル語」は役割語の一つであるといえる。この役割語とは、金水(2003)によって以下のように定義されたものである。

ある特定の言葉づかい(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと特定の人物像(年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等)を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる時、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。(p.205)

SNSに役割語が出現しやすいのは、CMCの自己装い性の高さに起因する。実際に送信者が老人であるか否かにかかわらず、「老人語」によって、老人を装っている。

まず「老人語」の使用例から見ていきたい。



(21) みゃー！

朝五つ、辰の刻ぢゃ！ 朝餉はしっかり食うたかの？ 出掛ける際は往来に気をつけるのぢゃぞっ☆

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/Jalert\_sama/status/1586855686222143488?s=20)

(22) 明日はお出かけなのぢゃ ゆにばにいくのぢゃ! 🏠 🍷 🎵

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/sorako25/status/1586861542121025536?s=20)

(23) とりゅっくおあちよりーちよぢゃよ!! !! 🌈

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/bokunohosi/status/1586860952552501248?s=20)

(24) ジジィ「まず、味の素を・・・え、使うのかって?」「大事なのは思い出じゃ。食ってる相手にさりげなく悩みや相談を聞いたりするんじゃ」

「いい思い出こそ最大の調味料。味付けは普通ぢゃ🤪。生半可に素材にこだわっていたら商品にならんわ w w w」

(投稿日：2022/10/30)

(投稿 ID：https://x.com/OxEzUfjY9bQmBhV/status/1586507274020786181?s=20)

(21) は助動詞「じゃ」の異表記であるが、「辰の刻」「朝餉」「食うたかの」といった投稿内容から、古めかしい言葉遣いを意識している一方で、感嘆符や、星型の記号から軽い印象を与える。(22) は遊園地である「ユニバーサルスタジオジャパン」を「ゆにば」とひらがな表記することから、古めかしさを表現しつつ、「お出かけ」からは軽い印象を受ける。(23) も (22) と同様に、洋語「トリックオアトリート」をひらがなで表記する一方で、軽い印象を受ける投稿内容である。(24) は脚本風の投稿になっており、話者の属性が「老人」であることが分かる。この投稿内容で興味深いのは、規範的な表記と異表記が同一投稿内にあるということである。「じゃ」と表記された台詞は、あたかも「老人」然としたものだが、「ぢゃ」と表記されている台詞は、笑っていることを示す記号「w」など「老人語」であると同時に、軽い印象を与えるものになっている。

そもそも、「老人語」には、重々しいイメージがあるとされる。金水 (2003) は、物語や漫画等に出てくる「老人語」話者に着目し、「単に年を取っているだけでなく、威厳がある、重々しい、王様のように権力を持っている、知恵があって主人公に助言を与えたり逆に主人公に害をなす」(p.10) といった特徴を挙げている。このように本来、重々しい印象になるはずの「老人語」である助動詞「じゃ」に、軽い印象を付与するために「ぢゃ」という表記

をとっているのではないかと考えられる。

続いて、形容動詞「まじだ」での「ぢ」の使用例を紹介する。

(25) もうまぢむり…寝よ…

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID： [https://twitter.com/BeForU\\_A/status/1586864289922842624?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw](https://twitter.com/BeForU_A/status/1586864289922842624?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw))

(26) メイド喫茶とかまぢ行ってみたいなって思う！

(投稿日：2022/10/31)

([https://x.com/hazuki\\_tan/status/1586859993290399745?s=20](https://x.com/hazuki_tan/status/1586859993290399745?s=20))

上記の使用例は先述の通り、「ギャル語」であるが、このように形容動詞「まじだ」を「まぢだ」と表記するのが特徴である。また、カタカナ表記で「マヂだ」とされるものも多い。「ギャル語」については、2022 年以前の投稿と比較することで、その使用上の特徴を洗いだしていきたい。

次に、㊦について考えていく。この使用例は 200 件の内、14 件と多くはない。

(27) きぼぢわるい<sup>7</sup>

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID： [https://twitter.com/\\_coco1s/status/1586865966205411329?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw](https://twitter.com/_coco1s/status/1586865966205411329?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw))

(28) めっぢゃずぎい！！！！！！！！！！センスが凄いカメラ細かい私が先に回って写真撮っちゃおうかな(??)初コちゃんも外套羽織っててかぢいねえ、、👉👉

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID： [https://x.com/co\\_43\\_/status/1586856079157211140?s=20](https://x.com/co_43_/status/1586856079157211140?s=20))

上記の例は、異表記ではなく、濁点付与になる。(27) は名詞「気持ち」、(28) は副詞「めぢゃ」に対する濁点付与であるが、これら濁点付与は、「ぢ」のみではなく、他の仮名にも同様になされることが多い。換言すると、文章自体に濁点付与がなされているのである。また、濁音が存在する仮名のみならず、濁音が存在しない仮名にも濁点付与がなされることもある。その使用例が以下である。

---

<sup>7</sup> ここでは、「きもち」を「きぼぢ」としており、バ・マ行音交代現象が起こっている。これは、濁点付与と/m/と/b/の調音点がともに両唇であることの二つが影響した結果だと思われる。

(29) ラムちゃん 🥰🥰🥰

かわいい (かわいい)

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://twitter.com/umi\\_og\\_/status/1586864225099489280?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw](https://twitter.com/umi_og_/status/1586864225099489280?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw))

上記の使用例では、高橋留美子の漫画『うる星やつら』の登場人物である、「ラム」についての投稿だが、「ち」だけではなく、濁音の存在しない「ラ」「ム」「ん」にまで濁点付与がなされている。

濁点付与は、現在では漫画でもよくみられるものである。これら濁点付与は、音声的に特徴のある発声を想定して記されていると思われ、自身の現状に対する興奮や、それに伴う発音を読者に伝えるために行われる。

濁点付与がなされた仮名の内、濁音が存在する仮名は濁音で発生されるが、本来濁音が存在しない仮名に対して濁点付与がなされるのは、「現代仮名遣い」のみでは表現しきれない発音を表現するためであり、音声的にはざら付いた発声となされる。この濁点付与は、実態を正確に捉えているか否かは別にしても、状況を相手に正確に伝えようとする、ある種の音声に対するリアリズムであり、表現上の工夫と言えるだろう。以下は尾田栄一郎による漫画『ワンピース』の一コマである。



図4 尾田栄一郎『ワンピース』(集英社刊) 第590話の一コマ

続いて、㊦について考察する。これは、効果は様々あるが、ほとんどは異表記と濁点付与が同時に起こっている例であると言える。

(30) う`ら`や`ま`ち`い`! `!` `!` `!` `!` `!` `!` `!` `!` `!` `!`

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://twitter.com/karasuki\_star/status/1586869599546798080?s=20&t=w-xva0mAFK13dpkxR9Azjw)

(31) 「アッ私もいただきます…! ……ア` ~~~おいちい…(溶け…)」

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://twitter.com/ReA\_CGb/status/1586870291245895680?s=20&t=w-xvamAFK13dpkxR9Azjw)

㊦の使用例については、異表記と濁点付与が同時に行われている。考察に当っては、これら二つの効果を個別で捉えていく必要があるだろう。そのため、まず濁点・半濁点を取り除き、異表記の効果を洗いだす。以下は、(30)、(31) から濁点・半濁点を取り除いた例文である。

(30) ’ うらやまちい!!!!!!!

(31) ’ 「アッ私もいただきます…! ……ア` ~~~おいちい…(溶け…)」

上記の例文からは、いかにも幼稚な印象を受ける。どちらも「し」から「ち」への表記の変更がなされているが、これは、「幼児語」の特徴と同様である。「幼児語」については、石黒 (2013) が分かり易い説明をしている。

幼児語は、発音しにくい音を発音しやすい音に置き換えることから生まれます。サ行の発音が発音しにくい場合が多く「おかあたん (おかあさん)」「うしやぎしゃん (うさぎさん)」「おいちい (おいしい)」「だいちゅき (だいすき)」「しゅごい (すごい)」などとなります。(p.82)

しかし、(30)、(31) を実際に幼児が投稿しているとは考えにくい。これらの投稿は「幼児語」を装ったものである。「打ちことば」における自己装い性の高さが如実に表れている部分でもある。これについて、役割語研究の一環として、岡崎・南 (2011) が、成人間またはペットに対して用いる「幼児語」を「甘え語」としている。これらは「し」から「ち」への発音の置換や、接頭辞「お」、接尾辞「ちゃん・さん」などが付くなどの特徴を持つとしている。

よって、(30) ’、(31) ’は、「幼児語」ではなく、「甘え語」と言った方が正確である。また、今回見られた使用例では、ほとんどが形容詞、形容動詞であった。それらは、「可愛い」「欲しい」「うらやましい」「嬉しい」「楽しい」「好き」といった、送信者自身の感情や感想

の中でも、「甘え」と親和性の高い語で用いられている傾向がある。これらの異表記には、「甘え」を表現することによって、その感情、感想がよりプリミティブなものであるという印象を相手に与える効果を持っているのではないかと考えられる。

以上より、㊦の異表記は感情、感想の純粹さ、幼稚さを表現する「甘え語」であり、それに加えて、㊤と同様の表現の工夫を意図した、濁点付与がなされていると考えるのが妥当だろう。

本項では、調査結果から、特殊な仮名表記としての「ぢ」を異表記と濁点付与という観点から分類し、それぞれの特徴を見てきた。㊣では、「老人語」「ギャル語」に用いられることが分かった。特に、「老人語」に用いられる「ぢ」は、厳格で重々しい印象になるはずの「老人語」を軽い印象にする役割があると思われる。㊤では、濁点付与の効果と目的を考察した。現在では漫画でも見られる表現であることも確認した。これについては、「ぢ」の性質というよりも、濁点付与そのものの性質であるため、「づ」でもその使用傾向を観察したい。最後に、㊦は異表記、濁点付与の役割をそれぞれ分類して考察することで、「甘え語」と濁点付与の複合であることが分かった。「甘え語」と、自身の興奮を読者に伝える強調表現である濁点付与が同時に使用されることで、感情の純粹さ、幼稚さを表現する効果があるのではないかと考察した。

### 6.1.2 特殊な仮名表記「ぢ」の経年比較

上記で、「ぢ」は特殊な仮名表記としてある程度役割を持って使用されていることが確認できた。ここでは、経年比較をすることで、その使用の特徴の変化や、役割の詳細な把握を行う。以下の図は、2007年、2010年、2013年、2016年、2019年、2022年の使用例を品詞ごとにまとめたグラフである。

N=200 (各年代)

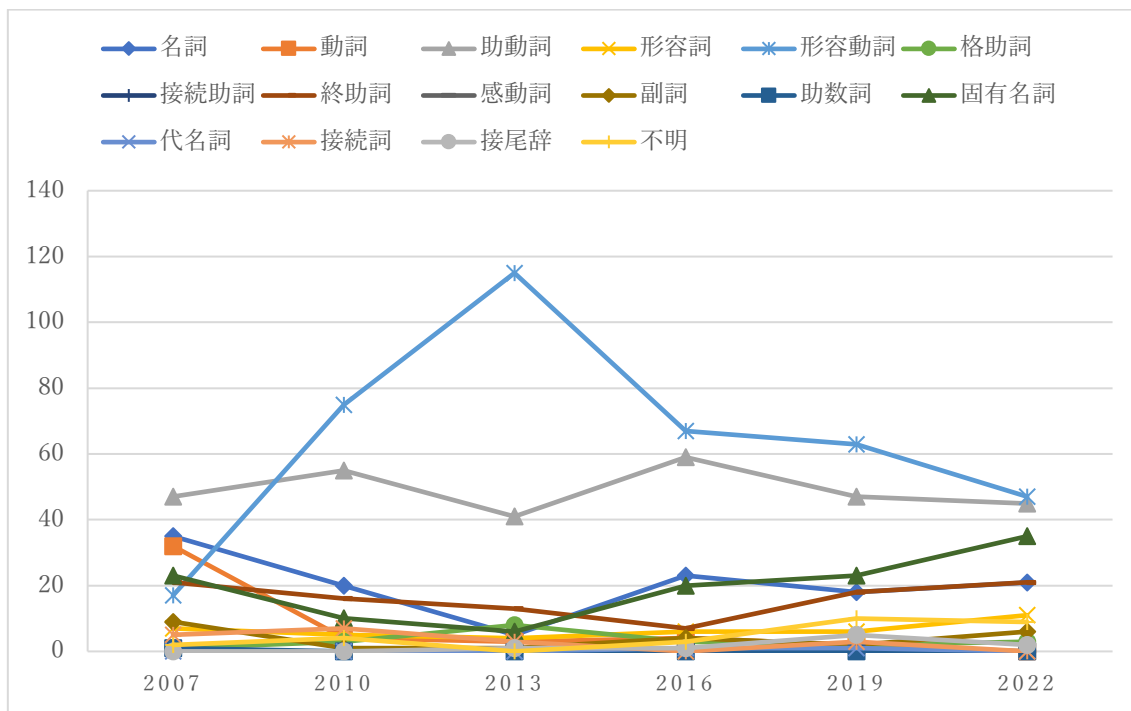


図5 「ぢ」の使用推移 (品詞別)

図5で特に注目すべきは、形容動詞の変動の激しさである。この形容動詞だが、2件を除いて、㊦の表記、つまり、「じ」から「ぢ」への異表記であり、その大半が形容動詞「まじだ」の異表記になる。2007年時点では、20件に満たず、他の用例と比較しても目立つものではなかったが、2010年には主要な使用例になり、最も多い2013年には、調査した200件の内114件と、半分以上が形容動詞での使用であった。2013年以降は、使用例件数が減少している。

この変化には、「ギャル語」の流行が関係していると思われる。かつてXで流行した「ギャル語」では、形容動詞「まじだ」を「マヂだ」と表記していた。以下、Xで見られた投稿である。

(32) もうぢ無理。彼氏とわかれた。ちょお大好きだったのに、ウのことうもうどおでもいいんだって。どおせぢわ遊ばれてたってト、いま手首切った、血が流れてる。もう生きていけないって思うのに、血は流れ続けてる、ぢわ大地に生かされてる…。

【コメント (0)】【イイネ! (3254)】

(投稿日: 2012/9/21)

(投稿ID: [https://x.com/izaya\\_oriharra/status/249128547577380864?s=20](https://x.com/izaya_oriharra/status/249128547577380864?s=20))

この「マヂだ」の使用例は、Xにおいては、2008年の投稿から見られるが、この表記が本格的に流行し始めたのは、2010年以降である。特に2011年には、(32)のような文体的

特徴を持つ投稿が見られるようになった。特徴としては、「う」「わ」「お」などの表記、カタカナ表記、半角表記が入り混じっていることが挙げられる。これは、「ギャル」というキャラクターの話し方、音声的な特徴の表現を試みた結果であると思われる。

この「ギャル語」は、2012年の9月頃から突然流行し始め、(32)をオマージュした投稿が頻繁になされた。

- (33) もうぢ無理。彼氏とわかれた。ちょお大好きだったのに、ぢのことわもうどおでもいいんだって。どおせぢお遊ばれてたってト、いま手首灼いた それは穏やかな幸福を満たすと同時、冷たき闇を滅する凍える不幸なり その名は炎、その役は剣 顕現せよ、我が身を喰らいて力と為せ

(投稿日：2012/9/22)

(投稿ID：[https://x.com/\\_NAMI73\\_/status/249378682202898432?s=20](https://x.com/_NAMI73_/status/249378682202898432?s=20))

2012年の9月以降の一定期間、Xでは、(33)のように「ギャル語」を真似た投稿が大喜利のようになされ、それと同時に「まじだ」を「マヂだ」と表記した投稿が多くなったのではないかと考えられる。図5において、2013年に形容動詞の使用例件数が非常に多くなっているのは、この「ギャル語」の流行に影響を受けたものではないかと考えられる。実際に上記の「ギャル語」のような表記上の特徴を持つ投稿も散見された。

- (34) 突然 dis られた。。。まぢゃみ。。。リスカしょ。。。。

(投稿日：2013/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/dreamer\\_\\_retsu/status/395697808767864832?s=20](https://x.com/dreamer__retsu/status/395697808767864832?s=20))

この使用例は、「病み」を「ゃみ」、「しょ」を「しよ」と表記している。なお、これらは、拗音とは異なり、あくまでキャラクターとしての「ギャル」が話すことばの特徴的なアクセントを表現しようと試みたものであることには注意が必要である。

以上、「ぢ」の形容動詞への使用例件数の変化について、「ギャル語」への「ぢ」の使用から考察したが、その根底には、2012年ごろを中心とした「ギャル語」の流行があることが分かった。しかし、2013年以降はその使用例件数が減少しており、2022年には、助動詞よりも使用例が少ない。「ぢ」の形容動詞への使用がこのまま減少し続けるか、中心的な異表記の一つとして定着するかは、今後さらなる調査をせねば断言することはできない。そのため「ぢ」の「ギャル語」への使用は、表現の一つとして定着したのではなく、「現状多くの人々が使用している表現」に留まるとと思われる。

続いて、助動詞に着目して考察する。この助動詞は、形容動詞とは対称的に変化が少ないように見えるが、詳しく見ていくと、古いものになるにつれて「老人語」としての使用が少なくなり、一方で助動詞「じゃ」の後に否定の助動詞「ない」が続く使用例が多くなる。



(35) きのはドライトマトと蟬ドライトマトを買いました。蟬ぢゃない。

(投稿日：2007/10/25)

(投稿 ID：https://x.com/miremon/status/362551802?s=20)

これらの投稿には、「老人語」の文体的な特徴が見られず、読者に軽い印象を与える以上の効果は確認できない。「じゃない」の異表記が多い理由としては、そもそも助動詞「じゃ」の後に「ない」が続くことが非常に多いことにあると思われる。「日本語話し言葉コーパス CSJ<sup>8</sup>」にて検索に掛けたところ、助動詞「じゃ」は 7411 件の検索結果が見つかったが、書字形出現形で後ろ一語に「ない」が来るという条件で検索をしたところ、検索結果は 5565 件であった。ここから、助動詞「じゃ」には、「ない」が非常に共起しやすく、それに伴い、異表記も多くなったのではないかと考えられる。以上より、この異表記は、規範から逸脱した表記をすることで、フォーマルなものではないことを読者に伝え、投稿の印象を軽いものにする役割を持っているのではないかと考えられる。

## 6.2 「づ」について

本項では、「づ」について考察する。「づ」は「ぢ」と同様に、「現代仮名遣い」でも一部認められる仮名である。以下で、特殊な仮名表記における「づ」について考察していく。

今回の調査で、「づ」の使用例には以下のようなものが見られた。

- ①「ず」を「づ」と表記する
- ②「つ」を「づ」と表記する
- ③上記以外の仮名を「ぢ」と表記する
- ④「現代仮名遣い」に則して表記する

上記の分類それぞれの、実際に見られた使用例は以下である。

(36) ちょっと待って💧

病院の駐車場の目立つ所工事車両専用でめちゃくちゃじっと見られる💧

看護師さん達興味深々やん💧

気まづ👤

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://x.com/kazuniki0608/status/1586855035090407424?s=20)

---

<sup>8</sup> 現代の日本語の話し言葉が集計されている。単語を検索に掛けることで、その語がどのように使用されているのか見ることができる。

URL：https://chunagon.ninjal.ac.jp/csj/search



(37) 麦わらストアは整理券が必要だということを知らず入店叶わず、いづが……いづがり`ベン`ジジでや`る`がら`な`!(ドン!)(ワンピース泣き)と思ってHP覗いたら明後日から地元で出張店舗やるらしくてわろた行くわ

(投稿日：2022/10/30)

(投稿ID：<https://x.com/yannubrocs/status/1586729574062510081?s=20>)

(38) 朝頃にあがるようにツイ予約して寝まづ、

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/Tanizaki\\_dayo/status/1586770119392649216?s=20](https://x.com/Tanizaki_dayo/status/1586770119392649216?s=20))

(36)は㊸に分類される使用例である。これは、形容詞「気まずい」の異表記である。(37)は、㊹に分類される使用例である。あくまで濁点付与であり、文字それ自体に特徴があるわけではないため、その使用目的や効果は「ぢ」で考察した濁点付与の効果と同様である。ここでは、「いつ」を「いづ」と表記している。「ワンピース泣き」とあることから、漫画『ワンピース』の表現を真似た表現であることが分かるだろう。続いて、(38)は、㊺の使用例である。助動詞「ます」の異表記である。

上記のように分類し、計上したものが以下の表である。

表6. 2022年「づ」の「投稿」(使用方法別)

N=200

品詞	動詞	形容詞	名詞	代名詞	固有名詞	助数詞	副詞	助動詞	副助詞	不明	合計
㊸	0	10	3	0	0	0	4	2	1	—	20
㊹	1	2	1	2	0	1	0	0	0	—	7
㊺	0	0	1	0	0	0	0	2	0	—	3
㊻	8	0	14	0	133	0	0	0	0	—	155
不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	15
合計	9	12	19	2	133	1	4	4	1	15	200

表6を見て分かる通り、「づ」の使用例は200件の内、155件が㊻に分類されるものである。つまり、「づ」の多くは、「現代仮名遣い」に則したものであった。以下、がその例である。

(39) 再生の～ヴァース！・♪…♪…♪…

あと5日頑張ったら3DCGライブとののっづトークショー…!!

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://x.com/mattyatya\\_fp/status/1586834009170280448?s=20](https://x.com/mattyatya_fp/status/1586834009170280448?s=20))

(39)の「のっづ」は声優の「野津山幸弘」の愛称である。「野津山」はひらがな表記で「のづやま」であり、「現代仮名遣い」では二語の連合によって生じた「づ」になる。今回の調査では、このような使用例が大半を占めており、㊦の固有名詞を見てみると、133件とかなり多いことが分かる。

㊦の次に使用例件数が多かったのは、㊩である。200件の内、20件がそれに該当する。「ず」から「づ」への異表記であるが、形容詞「気まずい」の異表記、「気まづい」への使用が中心であった。㊩の使用例20件の内、10件がこれであり、これ以外には統一性が見られなかった。使用例で示した(10)、(36)がこの「気まづい」に該当する。これらの表記には法則性があり、確認された使用例10件の内、9件が語幹で使用されていた。つまり、投稿で見られたものは、「気まづ」となる。これは、いわゆる「イ落ち構文<sup>9</sup>」である。「イ落ち構文」について、今野(2012)は「イ落ち構文は、話者が、眼前の事態や対象に対し、瞬間的現在時の直感的な感覚や判断を表出する私的表現行為専用の構文である。」(p.21)としている。つまり、「イ落ち構文」は対話者を想定せず、話者の直感的な感覚や判断を瞬時に表出する場面で用いられるということである。ただし、ここでは「イ落ち構文」と異表記がともに現れる要因について、詳しく言及することはできない。

なお、今回見られた㊩の使用例の内、形容詞「気まずい」が多い一方で、ほぼ同音の形容詞「不味い」の異表記が全く見られなかったことから、「気まずい」という語自体に、異表記を持ちやすい要因や背景がある可能性が考えられる。

最後に、㊨であるが、そもそも使用例が非常に少なく、僅か3件のみである。「ぢ」でも、㊨の使用例は15件と少なかったが、それと比較してもなお少ない。これについては、「ぢ」と比較して分かることがある。㊨は異表記と濁点付与が同時に起こった例であると考えられることは既に述べたが、「づ」から濁点を取り除いた「つ」には、「ち」の「幼児語」「甘え語」のような異表記としての役割が見られない。

(40) 1回寝てから3時からぜったいがんばりまづ

(投稿日：2022/10/31)

---

<sup>9</sup> 「イ落ち構文」は、形容詞終止形活用語尾が出現しない特徴を持つ。また、声門の閉鎖を伴って発話されることも多い。他に、「形容詞語幹単独用法」「イなし形容詞」とも呼ばれる。

例文：(美味しいものを食べて)「うまっ！」

(40) は助動詞「ます」を「まづ」と表記した例である。これに、「ぢ」の㊦の使用例と同様の操作を行い、異表記から濁点を取り除く。

(40) ' 1回寝てから3時からぜったいがんばりまづ

(40) 'からは、「ち」に見られた「甘え語」のような特徴を読み取ることができない。さらに言えば、(40) 'では、文意を正確に読み取ることができない可能性がある。「まつ」では、「待つ」と誤読してしまうかもしれない。

以上のように、他の仮名から「つ」への異表記それ自体が表現の工夫として見られず、それに伴い、「づ」の㊦の使用例も少数に留まるのだと考えられる。

以上、「づ」の特殊な仮名表記について見てきた。「づ」については、規範から外れた表記は非常に少ないことが分かった。「気まずい」への使用に一定の特徴は見られるが、それ以外では、ほとんどが「現代仮名遣い」に則した正書法である。これは、「ぢ」と比較して、二語の連合によって生じた「づ」を中心に正書法として使用される語が多いこと、「ぢ」における「老人語」、「ギャル語」また「ち」の「甘え語」など、CMCと親和性の高い役割語に「ず」「つ」が使用されることが少なく<sup>10</sup>、それに伴い異表記である「づ」の出現が少なくなっているのではないかと思われる。

### 6.3 「ゐ」について

ここでは、「ゐ」について考察する。既に説明した通り、「ゐ」は「現代仮名遣い」では使用されない仮名であり、その全てが特殊な仮名表記となる。ここでは、「現代仮名遣い」の表記である「い」と比較することで、「ゐ」の特徴を考察したい。以下、「い」と「ゐ」をそれぞれ品詞別にまとめた表である。

表7. 「い」と「ゐ」対照表

N=200 (「い」「ゐ」各表記)

品詞	動詞	形容詞	形容動詞	名詞	代名詞	固有名詞	感動詞	副詞	助動詞	副助詞	終助詞	接尾辞	不明
い	43	95	3	10	3	5	11	2	21	2	3	1	1
ゐ	14	101	0	16	0	145	10	0	7	4	0	0	3

<sup>10</sup> 金水 (2014) の『〈役割語〉小辞典』を参照したところ、「ず」もしくは「つ」の使用される役割語は動詞「つかわす」のみであった。

表7を見て分かる通り、正書法である「い」と比較して、「ゐ」は使用される品詞が少ない。異表記であるため、使用される品詞が正書法よりも少なくなるのは肯ける。しかしその分、「ゐ」の使用例件数は固有名詞と名詞に集中しており、特に固有名詞に関しては、200件の内145件と非常に多くなっている。また、「い」で最も使用例件数が多い形容詞に対して、余り使用されていないのも、特殊な仮名表記としての「ゐ」の特徴である。「い」に関しては、形容詞の終止形活用語尾と連体形活用語尾で使用されるため、その分使用例件数が多くなることは予想できるが、それに反して「ゐ」は200例の内、11例であり、中心的な使用ではなく、名詞、動詞よりも少なくなっている。よって、本稿における「ゐ」の考察では、特に固有名詞、名詞と形容詞に注目する。

なお、どの品詞においても、「ゐ」よりも「い」が中心的に使用されていることには注意が必要である。表7はあくまで、表記ごとの使用の偏りのみを示すものである。

この「ゐ」であるが、考察する上で、使用者の意識を無視することはできない。たとえば、以下の使用例がある。

(41) お菓子ゐいいゐゐいいいいいい

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://twitter.com/mina\\_mo\\_sakura/status/1586865630275588096?s=20&t=98CJGe1D7sq6dwsyBAvQMw](https://twitter.com/mina_mo_sakura/status/1586865630275588096?s=20&t=98CJGe1D7sq6dwsyBAvQMw))

(42) 藤本タツキの短編集読んでんだけどなんかギャグの感じがあらみけいいちの日常感あって面白い!!おすすめです!!

(投稿日：2022/10/30)

(投稿ID：<https://x.com/rZZLAHkk5ZyYg6F/status/1586720389748903936?s=20>)

上記の使用例はどちらも「ゐ」が使用されているが、大きな違いがある。(41)は、名詞「お菓子」を延ばして発音していることを表現するために、「ゐ」と「い」を重ねて表記している。(42)は固有名詞「あらみけいいち」が含まれる投稿である。「あらみけいいち」とは日本の漫画家である。この漫画家の名前の表記は、(42)の使用例の通り、「ゐ」を用いて表記するのが通常である。つまり、(41)は送信者自身による異表記であるのに対して、(42)は送信者自身による異表記ではないのである。

上記のことを踏まえて、調査結果を分析した表が以下である。

表 8. 「ゐ」の使用例（使用意図別）

N=200

品詞	動詞	形容詞	名詞	固有名詞	感動詞	助動詞	副助詞	不 明	合 計
1A	0	0	0	22	0	0	0	—	22
1B	0	0	1	119	0	0	0	—	120
2A	12	2	1	2	0	3	3	—	23
2B	2	8	14	2	1	4	1	—	32
不明	—	—	—	—	—	—	—	3	3
合計	14	10	16	145	1	7	4	3	200

表 8 について、「1」は送信者によらない異表記であることを示す。つまり、ある名詞や、ある固有名詞、それ自体が異表記をとっている例である。それに対して「2」は送信者による異表記であることを示す。また、「A」は古文を意識したと思われる異表記、「B」は使用意図を特定することができなかつた異表記を示している。これらの分類は、投稿者の性質、投稿内容を見て判断しており、必ずしも、歴史的仮名遣いと同一であるとは限らないことには注意が必要である。

表を見て分かる通り、「1B」が最も多く、120 件であった。そのほとんどが固有名詞である。名詞の 1 件は投稿内容が歌詞であり、その歌詞で名詞の異表記がなされていた例である。使用意図の特定であるが、その目的が多岐にわたり、特定が非常に困難である。特に、「1B」に分類したものは、投稿の文章に特徴があるわけではなく、名詞、或いは固有名詞のみにしか異表記が現れないため、表記の意図を捉えるためには、固有名詞の表記をした理由を各々追わなくては正確に捉えることができない。その中には、先にあげた使用例 (11) のように、文学的な意味を持つものも多く、単純に「ゐ」という表記を選択したに留まらないものもある。そのため、本稿では、「B」に分類したものについては、特殊な仮名表記による他の固有名詞や投稿との差別化であるとしか言うことができない。

それに対して、「A」は古文を意識したと思われる使用例である。以下に「1A」「2A」の使用例を示す。

- (43) そういえば今回、水着魔理沙が支援式で出てきましたが、そうすると次に出てくる てゐ は支援式ではないのかな…？ L1 が妨害式だから妨害式はないと思っていましたが、まさかのもう一度妨害式…？

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID : <https://twitter.com/mzhsprce/status/1586868641827409920?s=20&t=98CJGe1D7sq6dwsyBAvQMw>)

(44) 新宿駅の京王線の JR 連絡口通路なんか、朝のラッシュの時間帯は、よく事故が起きないな、と思ふくらみ以前は混んでゐたんですが、コロナ禍の今はどんな状況なんですかね？

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID : <https://twitter.com/nozakitakehide/status/1586825799742926848?s=20&t=96>)

DyxFprFbnXKmkpY4Uaw)

(43) は「上海アリス幻楽団」によって作成された『東方 project』のキャラクターである、「因幡てゐ」についての投稿である。この「因幡てゐ」はいわゆる「因幡の白兎」の話に由来し、成り立ちが古文を意識したものであったため、「A」に分類した。(44) は動詞「思ふ」という表記や、送信者の他の投稿に「云う」「をる(居る)」などの古文を意識したと思われる異表記が散見されたため、「A」に分類している。これら「A」の使用例については、「現代仮名遣い」では使用されなくなった他の仮名にも言えることであり、「ゐ」は固有の役割の獲得には至っていないと考えられる。

しかし、この「ゐ」は固有の役割の獲得に至っていないために、特殊な仮名表記の特色を捉える上では非常に重要な仮名であると言える。特に「2B」は既述の通り、送信者自身による異表記であり、効果についても他の投稿との差別化以上のものを読み取ることができなかったものである。そのため、この分類の調査結果は、異表記の根本的な特性を反映していると考えられる。そこで「2B」に着目すると、「い」と比較して名詞での使用率が多くなっていることが覗える。「い」での使用例では、形容詞、動詞が多く、名詞は 200 件の内、10 件のみであったことを考えると、「ゐ」の使用には、形容詞、動詞の使用率の低下と、名詞への偏りが見受けられるのである。

以上のことから、示唆的ではあるが、特殊な仮名表記は「用言に現れにくい性質」を持つ可能性が考えられる。もちろん、「ゐ」のみでは使用例が少なく、仮説の域を出ない。この特殊な仮名表記の特性については、他の特殊な仮名表記と合わせて、「7. 特殊な仮名表記」にて考察したい。

## 6.4 「ゑ」について

### 6.4.1 特殊な仮名表記「ゑ」の特徴

「ゐ」に続き、特殊な仮名表記としての「ゑ」の特徴を捉え、考察する。「ゑ」は「ゐ」と同様に、「現代仮名遣い」で使用する仮名ではなく、その全てが特殊な仮名表記となる。ここでは、「現代仮名遣い」において正書法となる同音の表記である「え」と比較することで、「ゑ」の機能的特徴を考察する。以下は「え」と「ゑ」を品詞別に分類した表である。

表9. 「え」と「ゑ」対照表

N=310 (各表記)

品詞	動詞	形容詞	形容動詞	名詞	固有名詞	感動詞	助動詞	接続助詞	終助詞	不明
え	23	64	8	16	23	141	10	3	19	3
ゑ	3	4	0	13	53	214	6	0	3	14

表9からは、「え」「ゑ」の双方にわたり、感動詞の使用例件数が非常に多くなっていることが分かる。両者を比較すると、使用例の偏りが強くなっているのは「ゑ」である。他に特徴的なのは、固有名詞の多さ、動詞、形容詞の少なさである。なお、「え」と「ゑ」がそれぞれ1分当たりどれほど使用されているのかを計算<sup>11</sup>すると、「え」は103.3件、「ゑ」は0.3件と圧倒的に「え」の方が使用頻度が高い。表9から読み取れるのは、あくまで各表記内における偏りであり、どの品詞においても「え」が中心的に使用されていることには注意が必要である。

まず、感動詞以外に着目する。感動詞が多いことを除けば、「ゑ」の使用例は「ゐ」と似ている。「え」では多い形容詞、動詞が「ゑ」では少なくなっていることが見て取れる。固有名詞と名詞が多く、用言への使用例件数が、同音の規範的な表記と比較して少なくなるという特徴は、「ゐ」にも共通して見られたものである。ここからも特殊な仮名表記には、「用言に現れにくい性質」があることが覗える。もちろん、「ゐ」と同様に古文を意識したと思われる投稿もいくつか見られた。

(45) はろういんなどという西洋の祭りにわかいものが興じておる報道が国営放送でも…なにゆゑに…東洋のこどもたちが西洋のこどものまつりに興じるのか…ことしの地蔵盆はもう終わったぞ…(はろういんて地蔵盆みたいなもんでいいんですね？え？お菓子もらえるんだよね…

(投稿日：2022/10/30)

(投稿ID：<https://twitter.com/kzasikakin/status/1586645538581073922?s=20&t=tM>  
B0AV3RWoIreLYw9b0kw)

<sup>11</sup> 収集したデータの内、「え」で最も古い投稿は2022年10月31日8時56分、新しいものは2022年10月31日8時59分であり、「ゑ」で最も古い投稿は2022年10月30日16時59分、新しいものは2022年10月31日8時39分であった。使用頻度は、使用例件数を期間の長さで割って算出した。なお、「ゑ」に関しては、小数第三位を四捨五入している。

え：310÷3=103.333333…

ゑ：310÷940=0.32978723…

続いて、「ゑ」の中心的な使用となる感動詞について考察する。Xにおける使用では、「え」も「ゑ」も感動詞での使用が多いが、「ゑ」の方が感動詞への使用傾向の偏りが強くなっていることが、表9から分かることは既に述べた。これらの感動詞へ使用される「ゑ」で古文を意識した使用例は2件のみであり、ほとんどが、古文を意識したと言えないものであった。次がその使用例である。

(46) …ゑ? 美しっ……ゑ? 好きです… (?????)

(投稿日 2022/10/31)

(投稿 ID : [https://twitter.com/takkobanzai888/status/1586756979217031168?s=20&t=5slWXEVIw4ZnZLV\\_qG-lcw](https://twitter.com/takkobanzai888/status/1586756979217031168?s=20&t=5slWXEVIw4ZnZLV_qG-lcw))

しかし、一口に感動詞と言っても、多くのものがあるため、それら使用例を分類して計上した。結果は次の表である。

表 10. 「ゑ」の感動詞の種類

感動詞	え	え い	お え い え い	え へ	え ん	お え	せ え の	は え	ひ え	い え	あ れ	合 計
え	128	1	1	3	4	1	1	1	1	0	0	141
ゑ	210	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	214

表10から、「ゑ」の感動詞への使用は、感動詞〈え〉に集中していることが分かる。そのため、以下では感動詞〈え〉に焦点を絞り、その機能と発生原因を考察していく。なお、本稿では、便宜上、調査対象としての“え”を「え」、感動詞の“え”を感動詞〈え〉と記述する。

「ゑ」の感動詞〈え〉への使用について考察する前に、まずは感動詞とは何か、その役割について説明したい。田窪・金水(1997)は感動詞の機能と役割を以下のように説明している。

感動詞、応答詞は、外部からの言語的・非言語的入力があったときの話し手の内部の情報処理の状態の現れと考えるとその機能を捉えることができる。対話の際、新規の入力があれば、対話者は、この入力に対応して特定の心的情報処理の状態へ移行する。これらの形式は、それぞれの心的情報処理に対応したフラッグのような役割を果たす。(p. 261)

まとめると、感動詞とは、情報を受け取ったときに発生する心的な情報処理の過程で起こった整合や失敗、動作中などの状態の音声化ということになる。

また、田窪・金水(1997)は同論文内で、便宜上ではあるが、感動詞を「入出力制御系」



と「言い淀み系」に分類し、さらにそれぞれの感動詞の分類を細かく分けている。まずは、「入出力制御系」の10分類を紹介する。

**応答 1:** ああ、はい、はあ、ええ、うん、ふん (下降イントネーション)

**応答 2:** いいえ、いえ、いいや、いや、いやいや

**意外・驚き 1:** は、はあ、え、ええ、へえ、ふん (上昇イントネーション) えっ、はっ、ふんっ

**意外・驚き 2:** あれ、あら、おや

**意外・驚き 3:** おお、わあ、おっ、わっ

**発見・思い出し:** あ、あっ、はっ

**気付かせ・思い出させ:** ほら、そら、それ

**評価中:** ふうん、へえ、ほお (緩やかな上昇または高平調)

**迷い:** ううん (平坦または緩やかな下降)

**嘆息:** あ (／は) あ、お (／ほ) お、う (／ふ) うん (緩やかな下降) (p.263)

また、同論文内で紹介された「言い淀み系」は次のように分類されている。

**非語彙的形式:** え、ええ、単語末母音の長音化

**語彙的形式:**

**内的計算:** ええ (っ) と、ううんと

**形式検索:** あの (一)、その (一)、この (一)

**評価:** ま (あ)、なんというか、なんか、やっぱり (p.273)

本稿では、上記の感動詞の分類を参考に、感動詞〈え〉を応答、意外・驚き、検索の3種類に分類する。以下が各分類で見られたそれぞれの使用例である。

・ 応答

(47) ええ～、久々にめっちゃ体調崩した……熱はないが動くのしんどい……

(投稿日：2022/10/31)

(投稿ID：[https://twitter.com/5YomeMv/status/1586870016775172096?s=20&t=\\_a641hBYq7AdRgJtHjammA](https://twitter.com/5YomeMv/status/1586870016775172096?s=20&t=_a641hBYq7AdRgJtHjammA))

この使用例は、不満を表す使用例であると考えられるが、本稿では、応答に分類した。

・ 意外・驚き

(48) えええ！！気付いてしまった、、 今週は3日が祝日じゃねえか！！！！4日に有給入れたら4連休じゃねえか！！もしかしておれ天才、、？

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://twitter.com/singer\_lulu\_/status/1586870235490971649?s=20&t=0LzZ8DDI47YLcT4tOUspTg)

感動詞〈え〉のすぐ後ろに、感嘆符が付されていることから、状況への驚きの表出であると判断した。

・検索

(49) え～今日元々おやすみだったんですがやらなきゃいけない仕事があることを思い出して入社したものの、やる気が皆無になったので、5分で退社しました。ああハロウィン万歳。

(投稿日：2022/10/31)

(投稿 ID：https://twitter.com/dai\_niji0522/status/1586870390080811008?s=20&t=QSgSDJtfRtjwwQVIRyinfng)

これは、語る内容を検索中であるという心的情報処理の過程を表出する感動詞である。感動詞〈え〉を以上の3種類に分類し、「ゑ」の使用上の特徴の分析を行う。

なお、文脈上、複数の意味で読み取ることができるものや、中間的な意味を持つと思われるものは、「応答／意外・驚き」といった項を設けて分類を試みた。以下のグラフは、今回の調査で見られた感動詞を上記の通り分類し、「え」「ゑ」それぞれのパーセンテージを示したものである。

N=210

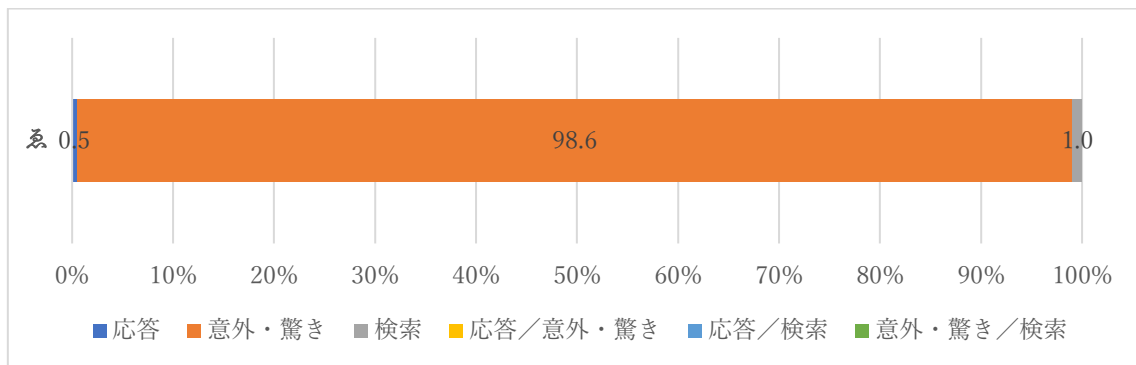


図6 感動詞〈え〉分類

上のグラフからは、「ゑ」の使用は感動詞〈え〉の内、「意外・驚き」の使用に限られていることが覗える。「意外・驚き」への使用は、実に98.6%を占め、他の分類への使用例はほとんど見られなかった。なお、検索で1.0%の使用が見られるが、これらは先程言及した古文を意識した使用例であったため、感動詞の種類が表記の選択に直接影響しているわけで

はない。

ここで、感動詞〈え〉がどのような心的情報処理の過程によって起こるか確認しておきたい。これについては富樫（2005）が次のように説明している。

3種類の「ええ」は情報の獲得をきっかけとしたデータベースへのアクセスという点で共通している。さらに言えば、獲得する情報は何らかの形でまとまり・有意性持っていないなければならない。でなければ、データベースにアクセスしても適切な処理ができないからである。「ええ」の特徴はこの2点に集約される。この処理の成功の可否がイントネーションの選択を変える。(p.89)

ここで言う「3種類の「ええ」とは、「肯定」「問い返し」「検索」であるが、これらはそれぞれ、本稿における「応答」「意外・驚き」「検索」にあたる。また、ここで言うデータベースについては、田窪・金水（1997）にて説明がある。

対話の際対話参加者は長期知識の一部を活性化させ、対話者や対話の目的に特化したデータベースを作成すると考える。…（中略）…また発話とこのデータベースの間にはさらに入出力用の複数の作業領域（バッファ）が必要であろう。（図参照）

長期記憶⇒データベース⇔バッファ⇔発話 (p.259)

上記の先行研究をまとめると、感動詞〈え〉は、獲得した情報に対する心的情報処理の成功の可否や、それに対する反応によって、表出するイントネーションと意味が異なるということである。たとえば、成功では「応答」、失敗では、「意外・驚き」、処理作業中の場合には、「検索」が表出する。また、「意外・驚き」については、心的情報処理の失敗の在り方によって、表出する感動詞に若干の違いがある。

というのも、今回の調査で見られた「ゑ」の感動詞〈え〉への使用には、長音記号や「えええ！」などといった同音の仮名の連続が共起しにくいという特徴が見られた一方で、疑問符や感嘆符、読点や3点リーダーが続く傾向があったのである。つまり、「話すように打つ」とされる「打ちことば」において、「え」と比較して、「ゑ」は短く発声されると想定される場合に使用されていると思われる。

感動詞〈え〉の発声の長短については、田窪・金水（1997）が以下のように説明している。

モデルに即して言えば、入力に成功し作業バッファにポインターを制作したが、データベースに登録する際のアドレスを付けそこなった、あるいはデータベースの要素にリンクできなかったなどの場合である。…（中略）…

後者では、声門閉鎖（促音化）が生じやすい傾向があるようである。(p.267)

言い換えれば、感動詞〈え〉の促音化は、対話のために準備した記憶情報と入手した情報

が上手くかみ合わなかった場合、つまり、得た情報が予想外で受け入れられなかった場合に起こりやすいということである。

(50a) 「アイドルの〇〇さん、引退するんだって」

「ええええ!」

(50b) 「アイドルの〇〇さん、引退するんだって」

「えっ…」

(50a) と (50b) の例文を見比べると分かり易いだろう。どちらも「意外・驚き」の意味を持つが、前者は「アイドルの〇〇」という記憶情報と「引退」という入手した情報を結び付けたうえで発話されているが、後者は、「アイドルの〇〇」と「引退」を上手く結びつけることができず、発話されていることが読みとれる。

以上、感動詞〈え〉の性質と調査結果を踏まえ、「ゑ」の使用が「意外・驚き」の感動詞〈え〉に集中している理由を考察すると、二つの要因が考えられる。一つ目は、「意外・驚き」の感動詞〈え〉が一文字で表現可能であること、二つ目は、「意外・驚き」の表現と異表記の親和性が高いという点である。

まず、「意外・驚き」の感動詞〈え〉が一文字で表現可能であることが、「ゑ」の感動詞〈え〉への使用例件数の増加に繋がっていることについて説明する。これについては、「ゑ」が「現代仮名遣い」ではなく、規範的な表記によって綴られる文章では、「ゑ」を見るのが少なくなっていることに起因している。既述した通り、Xにおける「え」と「ゑ」の投稿頻度は、簡易的ではあるが、「え」が103.33件、「ゑ」が0.32件と大きな差がある。他の日常的な場面でも、「ゑ」を文章に使用する機会ほとんどないと言っていい。それによって、「ゑ」は現代においては仮名という認識が薄くなっているのではないだろうか。換言すると、「ゑ」は文章を構成するための文字ではなく、「え」と同音の「記号」として認識されているということである。この傾向は、「ゐ」にて仮説とした、異表記の「用言に現れにくい性質」とも通底するだろう。用言は文章上では重要な立ち位置になり、文法にも縛られるからである。このように認識された「ゑ」を使用するにあたっては、文法に縛られにくく、かつ一文字で表現可能なもの、つまり「意外・驚き」の感動詞〈え〉に限られることは十分に考えられる。

続いて、二つ目の「意外・驚き」の表現と異表記の親和性について説明する。既に説明した通り、「意外・驚き」の感動詞〈え〉はことばや状況を受け入れることができなかつた心的情報処理の過程を表出するものである。特に、「ゑ」はその内、得た情報が予想外で受け入れられなかつた状態を表しているのだが、このような強い感情と異表記とは親和性が高い。これは濁点付与にも似ており、一般的な驚きとは異なる強い驚きの表現に「ゑ」が使用される。たとえば、以下の使用例が分かり易い。

(51) えエエゑ江絵?!?!

(投稿日 2022/10/30)

(投稿 ID : [https://twitter.com/ktrt\\_1206\\_ykst/status/1586723390379155456?s=20&t=aoPlz7mO05Qr3pVqWXXFow](https://twitter.com/ktrt_1206_ykst/status/1586723390379155456?s=20&t=aoPlz7mO05Qr3pVqWXXFow))

この使用例は、「意外・驚き」の感動詞〈え〉の使用例だが、「ゑ」の他にも、同音のカタカナ、漢字が用いられている。このように感情の高ぶりや強さを異表記にて表現する方法は、濁点付与ほどではないが、近年では漫画でも散見される。



図7 原作：戸塚たくす／作画：西出ケンゴロー（集英社刊）第16話『異世界ひろゆき』（集英社刊）第16話の一コマ

図7は、登場人物の一人が積年の恋心を告白する場面だが、焦りや緊張といった強い感情の表現のために、「す」に「巢」という異表記がなされている。

だが、ここで「ゑ」と同様に「現代仮名遣い」ではない表記であるはずの「ゐ」にて、感動詞がほとんど見られなかったということに疑問が生ずる。これについては、「い」が含まれる感動詞に着目してみると分かり易い。既に紹介した田窪・金水（1997）の感動詞分類に従えば、「い」が含まれる感動詞は、「いいえ」「いえ」「いいや」などの「応答」と「なんというか」などの「評価」である。これらは、入力された情報を処理した上で、それに対する何らかの返答という形をとるため、ある程度の判断が差しはさまり、激しい感情とは結び付きにくい。また、「い」を使用する一文字で表現可能な感動詞が存在しないことも、「ゐ」が感動詞の異表記に選択されない要因の一つであると考えられる。

以上、「ゑ」と感動詞の性質から「ゑ」が「意外・驚き」の感動詞〈え〉に使用される要因を二点考察したが、これらのどちらか、あるいは両方が相互に関係し合い、「ゑ」の「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用例件数の増加を引き起こしていると思われる。また、調査をしていく中で、「驚いたときには「ゑ」を、それ以外の時には「え」を使う」といった

言及例も見られた。これは「現代仮名遣い」により、既に役割を終えたはずの仮名である「ゑ」が、CMCでの使用を通し、「意外・驚き」の意味と結びつき、新たな固有の役割を獲得しつつあるということだと考えられる。

#### 6.4.2 特殊な仮名表記「ゑ」の経年比較

ここでは、「ゑ」の使用のされ方について、経年比較することで、その特性を考察していく。特に、2022年の「ゑ」の使用で特徴的だった、「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用の推移に着眼点を置き、観察していきたい。

以下のグラフは、2010年、2013年、2016年、2019年、2022年の調査結果を品詞別に分類し、経年比較<sup>12</sup>したものである。

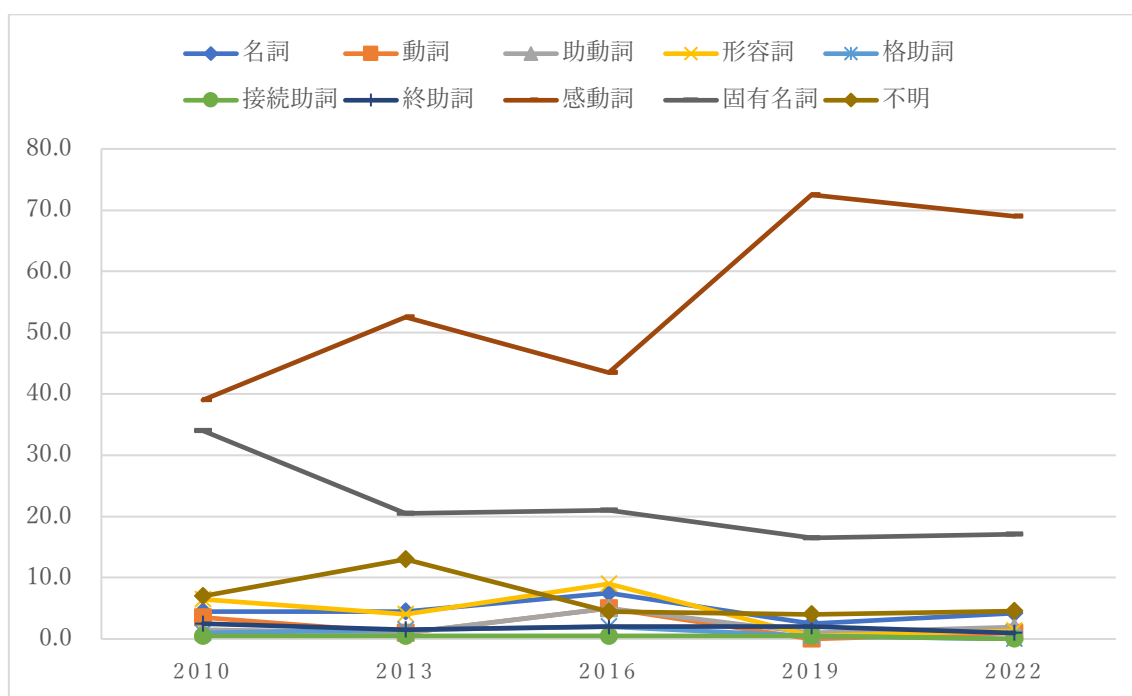


図8 「ゑ」の使用推移 (品詞別)

まず、図8についての説明が必要だろう。本稿では、2007年の10月31日以前の投稿も調査し、2007年1月1日までさかのぼったが、その結果「ゑ」の使用例が僅か13件のみであり、この使用例件数では考察材料としては少なすぎると判断したため、除外している。使用例件数の少なさは、Twitter (現 X) の日本でのサービス開始が2008年からであったため、そもそも日本語による投稿数全体が少ないためであると思われる。また、2023年10月31日以前の投稿のみ、310件収集していたため、それぞれの年の調査結果を百分比で示して

<sup>12</sup> 古いものになるほどに、投稿が削除されている可能性が高く、単純に使用例件数を比較すると、使用の実態を反映した結果にはならない。

いる。

図 8 から、「ゑ」の使用は 2010 年時点で既に、感動詞が主たるものであることが分かる。そして、この感動詞への使用率は、増加傾向にある。2010 年の時点で全体の 39.0%であった感動詞への使用は、2022 年の使用例では全体の 69.0%になっている。感動詞の次に使用率が高いのは、固有名詞である。ただ、2010 以降は、感動詞への使用率の増加に伴い、その使用率は減少している。

以上より、「ゑ」の使用は近年になるにつれて感動詞への使用に集中してきていることが分かる。なお、これらの感動詞は 2022 年の調査結果と同様に、そのほとんどが、「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用であった。

2010 年の時点で、「ゑ」は感動詞〈え〉への使用が中心になっていたことが確認できたが、この「ゑ」の感動詞〈え〉への使用はいつ SNS 使用者の内に広がったのであろうか。「ぢ」の形容動詞「まじだ」への使用が、2012 年ごろの「ギャル語」をオマージュした投稿の流行で、「ぢ」の使用の中心になったように、「ゑ」の感動詞〈え〉への使用も、一定以上の人々が目にする契機となるものがあつたはずである。

これについて、「ゑ」の使用例をさかのぼっていく中でわかつたことがある。「ゑ」で「意外・驚き」の感動詞〈え〉を表記する表現方法は、ニコニコ動画<sup>13</sup>という動画共有サービスで作成されていた、「マッド動画」にて、多くのインターネットユーザーに共有されたと思われる。この「マッド動画」について、デジタル大辞泉<sup>14</sup>は以下のように説明している。

既存の動画や楽曲を編集・加工して作成した動画。ふつう、有名なアニメなどの映像・音楽作品を無許可で使用し、動画共有サービスやソーシャルメディアに投稿される、異様な作品についていう。マッドムービー。マッド。

「ゑ」については、テレビ東京にて、2000 年 4 月 18 日～2004 年 9 月 29 日に放送されていた『遊☆戯☆王デュエルモンスターズ』を編集・加工した「マッド動画」で使用された。2001 年 12 月 4 日放送に放送された、『遊☆戯☆王デュエルモンスターズ』第 85 話の劇中にて、劇中の中心人物である武藤遊戯と城之内克也によって、以下の会話がなされる。

(52) 武藤遊戯「どうしたんだ、みんな」

城之内克也「だあつ、遊戯、おどかすなよ！」

武藤遊戯「え？」

(DVD：『遊☆戯☆王デュエルモンスターズ』第 22 巻 85 話より)

---

<sup>13</sup> ニコニコ動画とは、インターネット上での動画共有サービスの一つである。コメントが動画上に、字幕のように表示されるのが特徴である。

<sup>14</sup> 「マッド動画」については、調べた限り、デジタル大辞泉にしか記載が見られなかった。

この「意外・驚き」の感動詞〈え〉に対して、「マッド動画」では「ゑ?」、「エ?」「絵?」のような字幕がつけられた。この表現は、2008年ごろに流行し、一定の人々に受け入れられたようである。「ゑ」の「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用は、2008年ごろの「マッド動画」を皮切りにCMC内で拡散し、2022年に至るまで残り、「意外・驚き」に「ゑ」という特殊な仮名表記を使用する選択肢を生んだのではないかと考えられる。



## 7. 特殊な仮名表記

ここでは、特殊な仮名表記全体の特徴について考察する。特に特殊な仮名表記が「用言に現れにくい性質」を持つという仮説を「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」それぞれの調査結果から検証していきたい。

この仮説で第一に問題となるのは、特殊な仮名表記としての「ぢ」で、形容動詞「まじだ」への使用が非常に多くなっていることである。用言とは自立語の内、活用があり、その動作や状態を表現するもの、つまり、動詞、形容詞、形容動詞であり、「ぢ」の形容動詞への使用例の多さは、「用言に現れにくい性質」に反するものである。しかし、これについては、異表記「まぢだ」の使用のほとんどが、見かけ上、語幹で使用されていることが、この問題を回避している。たとえば、以下の使用例を見てほしい。

(53) これまぢ笑ったわ笑笑笑笑

まさかの飼い犬の名前の野良の人参戦で  
ほっこり(●´-`●)

(投稿日 2022/10/31)

(投稿 ID : [https://x.com/SZ\\_mimimimi/status/1586860450225917953?s=20](https://x.com/SZ_mimimimi/status/1586860450225917953?s=20))

(53) の使用例では、動詞に続くため、形容動詞であれば「まじで」と活用するのが妥当だが、ここでは語幹での使用である。さらに、既に「ぢ」の考察にて検討した使用例(25)のように後ろに名詞が続くとしても同様に、語幹で使用されている。もちろん、適切に活用された使用例も数件見られたが、それでも「ぢ」の使用例のほとんどは文脈に関わらず、活用されない。つまり、分類上は形容動詞<sup>15</sup>でありながら、どちらかと言えば、副詞的、接頭辞的な使用方法が大半を占めているのである。なお、形容動詞以外の異表記に着目すると、多いのは助動詞、固有名詞、終助詞であり、やはり用言への使用例は非常に少ない。

続いて、「づ」について検討していく。「づ」で特に多いのは、固有名詞、名詞、形容詞であった。だが、固有名詞については、その全てが「現代仮名遣い」に則したものであったことは既に述べたことである。これらの内、特殊な仮名表記としての「づ」で中心的だったのは、形容詞「気まずい」への使用である。ただ、これについても、「づ」の考察で紹介した通り、「ぢ」の使用例と同様に語幹で使用される例が大半を占めていた。「づ」の考察段階では、「気まず」という「イ落ち構文」に「づ」という異表記が現れる理由についての言及を控えたものの、文法機能が大きく関わっている可能性が考えられる。「イ落ち構文」の文法機能については、今野(2012)が次のように説明している。

---

<sup>15</sup> 本稿では、便宜上、分類に形容動詞を設けたが、形容動詞語幹は名詞に分類することが可能なため、この点からも、「用言に現れにくい性質」を見ることができる。

(4) [CP ... [TP ... [Neg ... [SC ... ]]]]

… (中略) …

イ落ち構文は、主語－述語構造 ((4) の SC 部) のみを備えており、それよりも構造的に上位に位置する否定辞 (Neg), 時制辞 (T), 補文化辞 (C) の各機能範疇及びその投射は持たないということになる。(p.7)

つまり、「イ落ち構文」は否定の助動詞「ない」が後続せず、活用語尾がなく、それに伴い、主格が標示されず、主語の主題化も疑問化もできないということである。「ぢ」の「まじだ」が形容動詞でありながら副詞的、接頭辞的に使用されることと同様に、形容詞「気まずい」も、「イ落ち構文」への使用によって、通常の形容詞とは大きく異なる働きをするものとなっている。富樫 (2006) が「瞬間的・現場的な事態の認識に限られる」(p.170) としているように、形容詞でありながら、感動詞とも似た表出過程を持っているのである。

次に、「ゐ」について、考察していく。「ゐ」は既に述べた通り、「い」との比較から、その特徴として固有名詞への集中と、用言への使用の減少を取り上げた。特に形容詞への使用について、「い」は形容詞終止形活用語尾と形容詞連体形活用語尾であるため使用頻度が高くなることは肯けるが、「ゐ」ではそのような使用例は 200 件の内、10 件のみである。また、動詞、形容動詞への使用傾向が弱くなることも確認できたため、「用言に現れにくい性質」は十分に見られると言えるだろう。

最後に、「ゑ」について、特殊な仮名表記の「用言に現れにくい性質」の検討をしていく。既に触れたが、感動詞、固有名詞への使用の集中と共に、動詞、形容詞、形容動詞への使用傾向が弱くなっていることが確認できた。

なお、この特殊な仮名表記の「用言に現れにくい性質」には例外がある。それは、「古文を意識した表記」と「音声的特徴を再現するための表記」の二つである。「古文を意識した表記」は品詞に関わらず文章全体に影響を及ぼすため、この異表記は品詞に関係なく出現する。「音声的特徴を再現するための表記」についても同様である。「ぢ」「づ」の両者で見られた濁点付与や、「ぢ」のみで見られた「甘え語」の幼児が発音しにくいサ行を他の表記に置換する表現方法や、「ギャル語」で紹介した使用例 (32) で見られた「う」「わ」「お」のように、ギャルが話しているような音声的特徴を再現する表現方法は、品詞にかかわらず出現する。

以上、「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」それぞれの調査結果を踏まえ、特殊な仮名表記の「用言に現れにくい性質」について考察してきたが、これが起きる理由については、二つのことが考えられる。

一つは、用言が文章内で特に重要な位置にあるということである。木村 (2012) は名詞・動詞・形容詞<sup>16</sup>・副詞を主要な品詞としつつ、「主要な品詞に属する単語は、基本的に語彙的

---

<sup>16</sup> 木村 (2012) の言う形容詞は、本稿における形容詞、形容動詞に対応する。繰り返しになるが、本稿では便宜上、形容詞と形容動詞を別の品詞として分類している。

意味と文法的な機能との統一体として文の中に存在する」(p.57)としている。また、動詞を「もちぬしの動的な属性として運動をあらわす」(p.68)とし、形容詞を「もちぬしの静的な属性として状態・性質をあらわす」(p.68)としている。つまり、動詞、形容詞、形容動詞は日本語において、あるものの属性をあらわすものであり、これを正確に伝達できなければ、コミュニケーションに大きな支障をきたすことになる。さらに、これらには活用がある。異表記により活用形が分かりにくくなることも、文章を読解する上では問題になるだろう。「古文を意識した表記」や「音声的特徴を再現するための表記」ではどのような異表記、あるいは濁点付与がなされるのか、ある程度共有され予測可能だが、それ以外の異表記が用言に現れると読解への負荷が大きくなってしまうことは十分考えられる。

二つ目は、役割語との関係が考えられる。この役割語について、金水(2003)は「日本語の役割語にとって特に重要な指標は、人称代名詞またはそれに代わる表現、および文末表現である」(p.205)と説明しており、さらに、なまり、感動詞、音声的な要素も役割語の要素となりうるとも述べている。この指摘は、本稿の調査結果にとっては非常に示唆的である。なぜなら、この役割語の在り方は、特殊な仮名表記の出現傾向と非常に似ているからである。役割語はキャラクター表出の標識<sup>17</sup>として、人称代名詞、活用や助動詞などの文末表現、なまり、感動詞、音声的特徴が重要となる一方で、特殊な仮名表記では、名詞、固有名詞、活用、助動詞などの文末表現、感動詞、音声的特徴に工夫が見られた。つまり、日本語において、文体的な特徴を出す上で標識となる品詞や文末表現、音声的特徴に特殊な仮名表記が好発しているということである。

以上、この項では、特殊な仮名表記の「用言に現れにくい性質」を検討、考察してきた。この特質は特殊な仮名表記を捉える上では非常に重要なものだと思われる。正書法から逸脱した、一見無軌道に見える特殊な仮名表記が、ある程度の規則性を持って出現する可能性が示されるからである。

ただし、この「用言に現れにくい性質」については、あくまで特殊な仮名表記に通底する要素であり、最終的に現れる特殊な仮名表記はそれぞれの仮名や文法、表現の工夫の在り方に依存していることには留意が必要である。たとえば、「ゐ」には感動詞での使用例がほとんど見られず、これに対して「ゑ」では感動詞〈え〉での使用例が中心的であった。このように、特殊な仮名表記としての「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」は「用言に現れにくい性質」を基本とし、そこにそれぞれの仮名やその周辺の要素の影響を受けて各々の形で出現していると思われる。

---

<sup>17</sup> ここでの標識とは、対話の相手に対して、ある特定の特殊な言葉遣いをする伝達する要素のことを指す。

## 8. まとめ・今後の展望

本稿の目的は、特殊な仮名表記としての「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」、それぞれの表記が持つ特性と、特殊な仮名表記それ自体が持つ特性を探究することであった。

「1. はじめに」では、「インターネットスラング」が発生する場所として、SNSを紹介した。現代において SNS は多くの人々が利用するコミュニケーション媒体の一つであり、日夜新たな表現を生成している。その、新たな表現の一つに、正書法から逸脱した仮名の使用があることを紹介し、一見して無軌道に見える正書法から逸脱した仮名の使用の在り方に規則性を見出す本稿の目的を示した。

「2. 先行研究」では、現代の日本語表記と、コンピュータを媒体としてなされるコミュニケーション、つまり、CMC についての先行研究を紹介した。現代の日本語表記については、文化庁の「現代仮名遣い」についての概要をまとめ、CMC については、コンピュータネットワーク空間におけるコミュニケーションについて、古い研究から紹介した。特に、CMC で視覚化された「打ちことば」の特徴は本研究では重要なものである。紹介した三つの特徴の内、自己装い性、言い換えれば演技性の高さは、本来現場性が高く、対話の場面で即座に発話される感動詞や「イ落ち構文」が、現場性の低いはずの X の投稿で見られる要因にもなっている。しかし、これら先行研究には、正書法から逸脱した仮名の使用についてのは少なく、その仮名の使用に言及する本研究の立場を明らかにした。

「3. X (旧 Twitter) を利用した用例収集」では、X の概要と日本語研究資料としての X の利点と問題点についてまとめた。X が日本では中心的な SNS のひとつであることを確認し、日本語研究資料として、言語変化の萌芽を観察できる点、高速で多くの用例収集が可能である点、校閲性の低い、実際の口語に近い言葉遣いの観察が可能である点の三点を利点として挙げた。また、研究資料として扱う上では、資料の保存性が悪い点、用例を使用例と言及例で峻別する必要がある点、送信者及び、投稿の方法によるコミュニケーションの性質の違いを理解しなくてはならない点に注意が必要であることも確認した。

「4. 調査方法」では、本稿における特殊な仮名表記とは何かを定義した。「現代仮名遣い」にて現代の国語を書き表す仮名として記載されていない「ゐ」「ゑ」の表記の全てと、「ぢ」「づ」の表記の一部を特殊な仮名表記とすることを明示した。なお、「ぢ」「づ」については、「現代仮名遣い」にある、表記の慣習による特例が認められているため、その紹介もしている。さらに「4. 調査方法」では、調査対象の紹介も行った。「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」それぞれの仮名が含まれる投稿を収集すること、投稿の性質を把握し、「bot」を排除することを示した。集計方法として X の「高度な検索」機能を活用し、収集した使用例のあつかいについても説明した。調査の際には、全ての使用例を手作業で確認し、語の品詞、活用型、活用形、特殊な仮名表記の性質、送信者名・ユーザーID、投稿ID を集計した。

「5. 調査結果の検討・分析」では、「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」それぞれの仮名の調査結果を実際に見られた使用例とともに紹介した。この項では、主にそれぞれの仮名ずつ調査結果を品詞別に分類し、各々の仮名表記に見られる偏りを明らかにした。「ぢ」は、形容動詞、名詞、固有名詞、助動詞、終助詞への使用例が多く、「づ」については固有名詞へその使用例

が集中していることが分かった。「ゐ」も「づ」と同様に固有名詞への使用例が多く、これに対して「ゑ」は感動詞への使用に偏っていることが分かった。

「6. 考察」では、「5. 調査結果の検討・分析」を基に、それぞれの特殊な仮名表記としての使用の特徴と、特殊な仮名表記の内、重要なものについては経年比較を行った。まず、「ぢ」について、その特殊な仮名表記の性質を異表記と濁点付与に分類した。異表記には形容動詞「まじだ」、助動詞「じゃ」があり、それぞれの異表記の効果と、濁点付与の効果、そして異表記と濁点付与の複合である「甘え語」の効果について考察した。また、形容動詞「まじだ」と助動詞「じゃ」については、2019年以前の使用例と比較することで、経年どのように変化しているのかを観察、考察した。その結果、形容動詞「まじだ」への使用は2012年ごろを中心としたSNSにおける「ギャル語」の流行に端を発していることが明らかになった。また、助動詞「じゃ」の使用についても、「老人語」と特定の文「じゃない」への使用があることが分かり、さらに、近年になるにしたがって「老人語」への使用が多くなる傾向が見られることが明らかになった。「じゃない」への使用については、異表記によって、投稿の印象を軽くするという効果を見出した。次に「づ」について、この仮名は異表記への使用が非常に少ないことが明らかになった。特に「現代仮名遣い」にある二語の連続によって生じた「づ」での使用例が非常に多かった。一方で、数少ない異表記としては形容詞「気まずい」への使用例が見られた。この「気まずい」への使用例はほとんどが「イ落ち構文」であることが分かった。濁点付与については、「ぢ」の濁点付与と同様の効果があることを確認した。調査結果から、特殊な仮名表記としての「づ」の特徴は、正書法として使用される機会が非常に多く、特殊な仮名表記としての使用が少ないということが分かった。続いて「ゐ」について、送信者によらない固有名詞への使用が非常に多く、特殊な仮名表記としては固有の役割の獲得には至っていないとわかった。しかし一方で、固有の役割の獲得に至っていないが故に、特殊な仮名表記の性質を純粋に反映した使用がなされるのではないかと考察した。そこで、「い」と「ゐ」の比較をした上で、「ゐ」では動詞と形容詞への使用傾向が弱くなっていることが分かり、特殊な仮名表記には、「用言に現れにくい性質」があるという仮説を立てた。最後に、「ゑ」について、感動詞へ使用が集中していることから、感動詞についての先行研究を紹介し、「ゑ」の感動詞への使用は、「意外・驚き」の感動詞〈え〉の表現のためになされていることを明らかにした。その上で、この異表記は、感情の高ぶりや強さを表現するために使用されていることを明らかにし、特殊な仮名表記としての「ゑ」は「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用という、固有の役割の獲得しつつあるのではないかと考察した。また、「ゑ」については、「ぢ」と同様に2019年以前の投稿と比較し、近年になるにしたがって、「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用傾向の偏りが強くなっていることを明らかにし、さらに、その使用方法が多くの人々に共有された発端が2008年ごろの「マッド動画」の流行にあるのではないかと考察した。

「7. 特殊な仮名表記」では、「ゐ」の考察にて立てた仮説「用言に現れにくい性質」の検証を行った。まず、「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」それぞれの考察の結果から、特殊な仮名表記には「用言に現れにくい性質」があることを確認した。「ぢ」については、形容動詞「まじだ」

への使用が、語幹で使用されることを確認し、それらが副詞や接頭辞のように使用されるため、「用言に現れにくい性質」には反していないと考察した。「づ」はそもそも特殊な仮名表記が非常に少ないものの、形容詞「気まずい」への使用が見られたため、それについて仮説の検証を行った。考察では、形容詞「気まずい」への使用がほとんど「イ落ち構文」であったことに着目し、この「イ落ち構文」が形容詞よりもむしろ感動詞に似たものであるということを確認した。続いて、「ゐ」について、「い」が多く使用される形容詞終止形活用語尾と形容詞連体形活用語尾にもほとんど使用されていないことを再確認した。最後に、「ゑ」について、使用例の感動詞、固有名詞への集中と、「え」の使用例との比較から、「ゑ」は動詞、形容詞、形容動詞への使用傾向が弱くなっていることを確認し、特殊な仮名表記が「用言に現れにくい性質」を持つという仮説の妥当性を示した。

また、特殊な仮名表記が「用言に現れにくい性質」を持つ理由として、用言が文章内で重要な位置にあることと、役割語との関連の二つを考察した。前者は、読解への負荷に係る問題であり、後者は日本語における表現の問題である。

一方でここでは、「用言に現れにくい性質」の例外として、「古文を意識した表記」と「音声的特徴を再現するための表記」という二つの例外があることを示した。

以上、本研究で明らかになった特殊な仮名表記の在り方を整理する。まず、根本的に、特殊な仮名表記には、「用言に現れにくい性質」がある。その例外として、「古文を意識した表記」と「音声的特徴を再現するための表記」がある。その上で、「6. 考察」にて言及した「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」それぞれの仮名やその周辺の要素があり、これらが重ね合わさり、特殊な仮名表記として現れる。これらのことを踏まえ、特殊な仮名表記の出現過程のイメージを以下に示す。

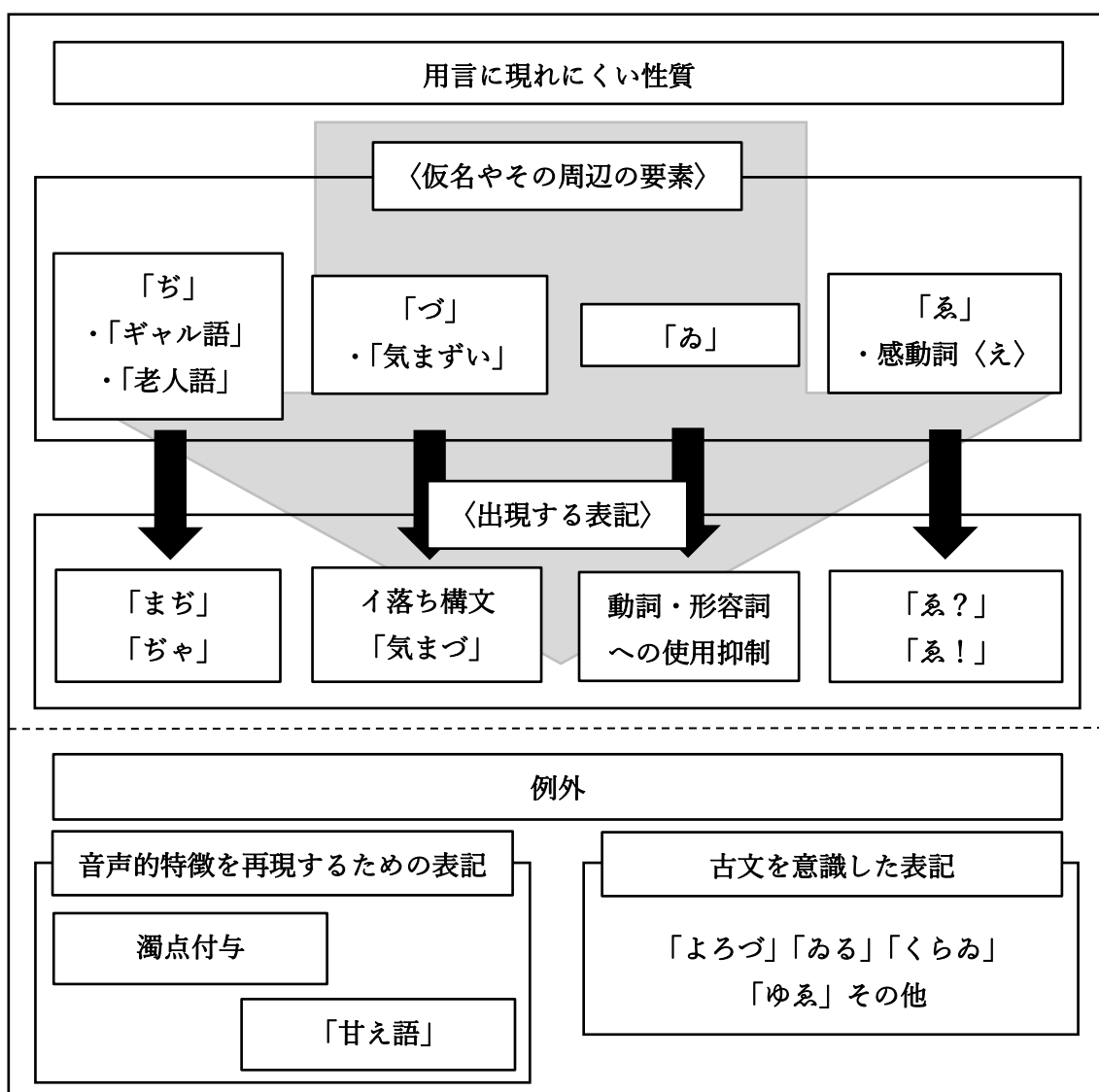


図9 特殊な仮名表記の出現過程イメージ

図9は特殊な仮名表記の出現過程を図式化したものである。この図を応用すれば、新たに生まれる特殊な仮名表記についてある程度の予想が可能となる。たとえば、広島県の方言「じゃけえ」を「じゃけゑ」と表記することは、許容度が高く、発生しやすい表記であると推測できる。よって本研究は、一見無軌道に見える特殊な仮名表記の規則性の一端を示すことができたと言えるだろう。

しかし、本稿では、「ぢ」「づ」「る」「ゑ」の特殊な仮名表記としての使用に焦点を絞り、調査を進めたため、図9はあくまで、調査した四つの仮名に見られた出現過程をまとめたものに留まる。また、「ぢ」の「まぢ」や「ぢゃ」、「ゑ」の「意外・驚き」の感動詞〈え〉への使用が、今後どのような変化を辿っていくのか把握するまでには至らなかった。さらに、「づ」の「気まずい」への使用が見られたにもかかわらず、「不味い」への使用が全く見られなかったことの原因も把握しきれていない。以上を踏まえて、今後の課題として、四つ挙

げられる。それは、「を」のような「ぢ」「づ」「ゐ」「ゑ」以外の特殊な仮名表記の調査と、2023年以降の継続的な調査、そして、特殊な仮名表記としての「づ」のさらなる調査と「イ落ち構文」の性質の探究の四点である。加えて、SNSではない、他の言語資料にも目を向けてみたい。

今、現在もインターネットのコミュニケーション上で、新たな表現の誕生と消滅は進行している。それらがどのように広がり、日本語にどのような影響を与え、どのような変化をもたらしていくのか、今後も注目し続けたい。



## 参考文献

- ・石黒圭 (2013)『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』 光文社
- ・上野和昭 (1978)「国語におけるマ行音バ行音交代現象について」『国文学研究』第 66 巻：pp.73-83.
- ・内山和也 (2021)「日本語の「打ちことば」の概念に関する一考察」『別府大学日本語教育研究センター紀要』第 11 巻：pp.29-33.
- ・大浜るい子 (2001)「「えっ」の談話機能」『広島大学院教育学研究科紀要』第二部 第 50 号：pp.161-170.
- ・岡崎友子・南侑里 (2011)「役割語としての「幼児語」とその周辺」『役割語研究の展開』：pp.195-212. くろしお出版
- ・岡田祥平 (2014)「インターネットを利用した新語・流行語研究の可能性—「Twitter」の蔑称の拡散過程の検証を例として—」『新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第 6 巻第 2 号：pp.127-154.
- ・岡田祥平・西川由樹 (2016)「日本語研究資料としての Twitter—コミュニケーション構造の観点から—」『新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第 9 巻第 1 号：pp.93-111.
- ・岡田祥平 (2018)「現代における先端的な動向の解明のための言語資料—Twitter と「質問サイト」を例に考える」『日本語学会 2018 年度秋季大会シンポジウム報告 日本語の先端的な動向の解明とそのための新しい資料論』：pp.77-82.
- ・岡田祥平 (2019)「SNS を日本語研究資料として利用するための覚書—『日本語学』2019 年 4 月号掲載の拙論に対する補遺として—」『新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第 12 巻第 2 号：pp.163-180.
- ・岡田祥平 (2019)「一語から始める SNS ことばの研究—SNS の「特性」と先行研究からその可能性を考える—」『日本語学』第 38 巻第 4 号：pp.56-66.
- ・岡島昭浩 (2018)「過去における〈先端的な動向〉の解明のために」『日本語学会 2018 年度秋季大会シンポジウム報告 日本語の先端的な動向の解明とそのための新しい資料論』：pp.77-82.
- ・尾田栄一郎 (2012)『ワンピース』第 60 巻. 集英社
- ・落合哉人 (2022)「コレ・ソレ・アレの使用実態から捉える対面会話の話しことばと携帯メール・LINE の「打ちことば」」『日本語と日本文学』第 68 号：pp.27-45.
- ・加納なおみ・佐々木泰子・楊虹・船戸はるな (2017)「「打ちことば」における句点の役割—日本人大学生の LINE メッセージを巡る一考察—」『人文科学研究』第 13 巻：pp.27-40.
- ・金水敏 (2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店
- ・金水敏 (編) (2014)『〈役割語〉小辞典』 研究社
- ・近藤研至 (2022)「語幹 1 音節形容詞のイ落ち型形容詞文について」『教育学部紀要』第 56 巻：pp.37-47.
- ・今野弘章 (2012)「イ落ち：形と意味のインターフェイスの観点から」『言語研究』第 141

卷：pp.5-31.

・定延利之（2005）「日本語のイントネーションとアクセントの関係の多様性」『日本語科学』第17巻：pp.5-25.

・定延利之（2015）「感動詞と内部状態の結びつきの明確化に向けて」『感動詞の言語学』：pp.3-14. ひつじ書房

・真田真治・友定賢治（編）（2007）『地方別方言源辞典』東京堂出版

・清水泰行（2015）「現代語の形容詞語幹型感動文の構造—「句的体言」の構造と「小節」の構造との対立を中心として—」『言語研究』第148巻：pp.123-141.

・総務省（2016）『平成28年版 情報通信白書』「資料編」用語解説：pp.430-435.

・総務省情報通信政策研究所（2023）『令和4年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書』

・高橋和希・スタジオダイス（原作）杉島邦久（監督）（2002）『遊☆戯☆王デュエルモンスターズ』第22巻（アニメ）. 集英社. テレビ東京・NAS

・田窪行則・金水敏（1997）「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会（編）『文法と音声』くろしお出版：pp.257-259.

・田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代—ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店

・田中ゆかり（2014）「ヴァーチャル方言の3用法「打ちことば」を例として」石黒圭・橋本行洋（編）『話し言葉と書き言葉の接点』：pp.37-55. ひつじ書房

・田野村忠温（2000）「電子メディアで用例を探す—インターネットの場合—」『日本語学』第19巻6号：pp.25-34.

・富樫純一（2005）「肯定・検索・問い返し—感動詞「ええ」の統一的記述を求めて—」『文藝言語研究 言語篇』第48号：pp.77-93.

・富樫純一（2006）「形容詞語幹単独用法について—その制約都心的手続き—」『日本語学会2006年度春季大会予稿集』：pp.165-172.

・富樫純一（2013）「感動詞・応答詞の分析手法」『日本語学 臨時増刊号（特集 ことばの名脇役たち）』第32号第5巻：pp.26-35.

・富樫純一（2022）「感動詞「ええ」の派生的表法について—苛立ち・不満を示す場合—」『日本文学研究』第59巻：pp.155-143.

・戸田貴子（2002）「新ひらがな表記—母音における濁点付与の容認度と使用実態に関する研究」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』第15巻：pp.77-93.

・戸塚たすく（原作）・西出ケンゴロー（作画）（2023）『異世界ひろゆき』第2巻. 集英社

・中村純子（2015）「「超」の用法」『松本大学研究紀要』第11号：pp.205-216.

・成田徹男・榊原浩之（2004）「現代日本語の表記体系と表記戦略—カタカナの使い方の変化—」『人間文化研究』第2号：pp.41-55.

・日本語学会（編）（2018）『日本語学大辞典』東京堂出版

・萩野綱男（1996）「電子メールの光と影」『日本語学』第15巻第12号：pp.4-11. 明治書院

- ・橋本進吉（1934）『国語法要説』 明治書院
- ・橋本行洋（2021）「新語の定着とその条件」金沢・川端・森（編）『日本語の乱れか変化かこれまでの日本語、これからの日本語』：pp.131-151. ひつじ書房
- ・村木新次郎（2012）『日本語の品詞体系とその周辺』 ひつじ書房
- ・森山卓郎（2004）「引き伸ばし音調について」音声文法研究会（編）『文法と音声IV』：pp.231-255. くろしお出版
- ・山口謠司（2022）『あゝ 教科書が教えない日本語』 中央公論新社
- ・Peter Hugoe Matthews（編） 中島平三・瀬田幸人（監訳）（2009）『オックスフォード言語学辞典（新装版）』朝倉書店

## 参考 URL

- ・東方 project 25 年記念サイト  
(<https://touhou-x.jp/>)  
(最終閲覧日：2024/01/27)
- ・“ニコニコ動画” 日本大百科全書 JapanKnowledge  
(<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001050308429>)  
(最終閲覧日：2024/01/27)
- ・日本語話し言葉コーパス CSJ  
(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/csj/search>)  
(最終閲覧日：2024/01/27)
- ・“ピノキオピー - 腐れ外道とチョコレゐト feat. 初音ミク / Kusare-gedou and Chocolate”  
(<https://www.youtube.com/watch?v=sHnvEsNU1X0>)  
(最終閲覧日：2024/01/27)
- ・文化庁「現代仮名遣い」  
([https://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/gendaikana/index.html](https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/gendaikana/index.html))  
(最終閲覧日：2024/01/26)
- ・“マッド動画” デジタル大辞泉 JapanKnowledge  
(<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001029963774>)  
(最終閲覧日：2024/01/27)
- ・“ユー・チューブ【YouTube】” デジタル大辞泉 JapanKnowledge  
(<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001021613000>)  
(最終閲覧日：2024/01/27)
- ・“遊戯王 MAD でよく使われるネタの元ネタ”  
(<https://www.nicovideo.jp/watch/sm2008377>)  
(最終閲覧日：2024/01/29)
- ・“米津玄師 Kenshi Yonezu - KICKBACK”

(<https://www.youtube.com/watch?v=M2cckDmNLMI>)

(最終閲覧日：2024/01/27)

・“ゑ?” ニコニコ大百科 (仮)

(<https://dic.nicovideo.jp/a/%E3%82%91%3F>)

(最終閲覧日：2024/01/27)

・“X”

(<https://twitter.com/>)

(最終閲覧日：2024/01/29)